

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

第 23 号
平成 24 年 6 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



平成23年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成23年 4月 9日 於 宮崎観光ホテル



平成24年度 宮崎大学医学部整形外科同門会 平成23年12月3日 於 宮崎観光ホテル



ご挨拶

会長 河野 雅行

皆様方におかれましては、息災の事と推測いたします。

昨年、引き続いた大災害の復興に向けて各方面が努力をされていますが、放射能問題、電力供給問題等未だに解決していないものも多くあります。一日も早い復興を願っております。関連して我国の政治・経済は相変わらずの混迷が続いております。諸外国の軋轢に抗して往年の繁栄を取り戻すには並大抵の努力では難しい状態と推測されます。将に内憂外患の状態ですが、我国は必ず再生出来るものと信じております。既に大阪や愛知辺りでは新しい動きも始まっているようです。我々は社会の変化を見据えつつ、それに協力しながらも振り回されない様に自分の職責を全うしたいものです。

今回は、地域医療の再生を目的として診療報酬の改定が行われました。残念ながら第一線で地域医療を支えている中小病院や診療所についての配慮は未だ不十分な内容です。これでは本当の意味での地域医療再生には程遠いものがあります。何度も申します様に地域医療崩壊の原因は多々有りますが、最大要因は医療・福祉予算の減額である事は明白です。医療費の内、整形外科の占める割合は僅

か3%(8千億)に過ぎません。これは外来、入院、検査、手術等を全部包括した数字です。それでも、診療報酬を決定します中医協の支払い側委員には「整形外科はまだまだ儲かり過ぎなので、診療報酬を減額して他の科に廻せ」との、根強い意見も依然として有ります。更に、経済至上主義者である政財界には医療・福祉をも、儲けの一貫として捕らえる輩も多々おります。彼らの間では患者負担問題、特区構想、特定看護師(NP)問題、混合診療解禁、医療類似行為の拡大等が真剣に検討されて、既に認められた事項もあります。我々は慎重に見守り対応を誤ってはなりません。昨年の窓口負担問題1昨年5分間ルールは医師会と会員諸兄が強力に反対して中止になりましたが、当然です。しかし、将来同様の事案が再燃する懸念は十分予測されます。更に政府の邁進しておりますTPP参加により医療・福祉も例外無く自由化されますし、我国の公的医療保険制度が米国の民間保険から見て垂涎のターゲットである事は分っております。国民皆保険制度を堅持する為にも、我々は声を大にして反対し続ける必要が有ります。我々が最も注意すべきは全ての事柄に無関心を装うことです。今後共に御

協力をお願いします。

一方、我が同門会活動並びに核となります
大学教室活動は、順調に推移しております。

教室に於かれましては田島名誉教授以来テーマの一つでもある、スポーツ・メディカルに関する研究・業績は、帖佐教授を中心に実績を挙げられ、全国的にも高い評価を受けております。また、帖佐教授は今やロコモティブ・シンドロームの旗手としてマスコミでも御活躍されています。

今回の同門会奨励賞は慎重な審査の結果「田島卓也」先生が受賞されました。おめでとうございます。さらなる精進を期待いたし

ます。留学支援は同じく「田島卓也」先生が受けられました。その他希望の先生はどうぞ申し込みをしてください。

昨年は「本部浩一郎」「河野立」の2名の先生方が御開業されました。開業医にとりましては決して楽な社会情勢ではありませんが、健康に注意されて地域医療に邁進していただきたいと思います。

昨年度の新規入会は4名ありました。「戚美玲先生」「大塚紀史先生」「森田雄大先生」「谷村俊次先生」の方々です。御入会を歓迎し、御活躍を期待いたしますと共に同門会への積極的な御協力も御願いたします。



新入教室員歓迎

帖 佐 悦 男

ここ数年間は、宮崎県にとっても日本や世界にとっても信じられない年であったと思います。宮崎県では、口蹄疫や鳥インフルエンザの蔓延、新燃岳の噴火があり、県外では未曾有の東北関東大震災（東日本大震災）が発生しました。多くの方々が未だに困っておられ、一日も早い復興をあらためまして祈念致します。

さて、新入教室員を迎える桜の満開の時期は、何度あっても大変嬉しいものです。新年度にあたり巻頭言を述べます。大学では、新たな改革が進んでいます。本邦で初めての医獣医融合型の大学院が開講し、総合特区に指定されました東九州メディカルバレー構想が開始されました。医学部に関しましては、医工連携事業も開始され、また民間企業との協定など産官学連携をより一層推進するために、整形外科の役割もこれまで以上多くなりますので、ご協力よろしくお願い致します。医学部附属病院では、救命救急センターの開設、ドクターヘリの運航が開始され多くの多発外傷の患者さんの治療にあっております。病院改築に関しては、今年中に整形外科病棟やりハビリテーション部の改修が終了し、患者さんたちにより満足して頂け最新の

医療が受けられる環境が整います。

教室では、3名の新入教室員を迎えることができ活躍して頂いております。嬉しい知らせです。レジデントの先生には、希望に満ち溢れた新たな出発点となりましたので、夢と目標をもって診療・研究・教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関しては、まず専門医をとり、その後少しずつスペシャリティを考え研究に専念したい場合、大学院へ進むことも貴重な体験になります。夜間大学院もありますので活用してください。今後多くの教室員が増えますよう教室員のみならず同門の先生方のご協力もよろしくお願い致します。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院へと集中したため、関連病院への医師の派遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。また、開業される先生方もおられ教室員一同苦境に立たされていますが、幸い教室・同門の先生方のご理解・ご支援によりなんとか乗り切ることができています。ご協力頂きました先生方に感謝致します。

本年度も「ロコモティブシンドローム

(locomotive syndrome) : 運動器症候群 : ロコモと略す」について述べます。日本整形外科学会が、運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を表す新しい言葉として「ロコモ」を提唱し、自分で気付くためのロコモチェック（ロコモーションチェック）とロコモ対策としての運動を作成しています。多くの先生方のご尽力もあり国も運動器疾患の重要性に注目するようになり、健康日本21の素案：「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」の中に、「ロコモを認知している人の割合を増加させる」ことや「足腰に痛みのある高齢者の減少」などが盛り込まれています。ロコモ認知度の調査で、幸い宮崎県は一番でした。これもひとえに同門・教室員の先生方のご協力のおかげと感謝致します。是非、この目標を

達成させるため、宮崎県からロコモ啓発やロコモ予防をすすめましょう。ロコモ予防の取り組みを、NHKのクローズアップ現代、きょうの健康や名医にQなどで紹介して頂き、厚生労働科研で「ロコモコール」という新たな取り組みを全国の先生方と一緒に開始していますので、ご協力頂ける先生はご連絡を下さい。

最後になりましたが、新たに入局していただいた先生方を加え、教室員の和を大切に、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりしくお願い申し上げます。

目 次

ご 挨拶 河 野 雅 行

巻 頭 言

新入教室員歓迎 帖 佐 悦 男

メインテーマ ～関連病院の紹介～

- ・ 社会保険宮崎江南病院 益 山 松 三 1
- ・ 宮崎市郡医師会病院 福 元 洋 一 3
- ・ 宮崎善仁会病院 黒 田 宏 4
- ・ 宮崎県立こども療育センター 柳 園 賜一郎 5
- ・ 野崎東病院 久 保 紳一郎 7
- ・ 宮崎県立日南病院 松 岡 知 己 9
- ・ 百瀬病院 上 通 一 師 10
- ・ 串間市民病院 川 添 浩 史 12
- ・ 宮崎県立延岡病院 栗 原 典 近 14
- ・ 高千穂町国民健康保険病院 塩 月 康 弘 16
- ・ 国立病院機構宮崎病院 安 藤 徹 18
- ・ 済生会日向病院 黒 沢 治 19
- ・ 国立病院機構都城病院 税 所 幸一郎 20
- ・ 藤元早鈴病院 園 田 典 生 22
- ・ 公立多良木病院 浪 平 辰 州 24
- ・ N T T西日本九州病院 飯 干 明 26

・宮崎大学整形外科

下肢班	坂本武郎	28
脊椎班	増田寛	29
上肢班	大田智美	30
スポーツ班	田島卓也	32

医局長挨拶

前医局長挨拶	矢野浩明	34
医局長挨拶	坂本武郎	37

第6回宮崎整形外科医学奨励賞

第6回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞して	田島卓也	38
---------------------------	------------	----

同門会・医局行事

・西日本整形外科野球大会を終えて	石田康行	40
・日本整形外科学会学術集会親善サッカー大会	森治樹	41
・同門会ゴルフ大会	三股恒夫	42
・同門会テニス大会優勝について	谷島満	43
・第7回帖佐杯ゴルフ大会優勝について	江夏剛	45

新入会員紹介（賛助会員）

ご挨拶	谷村俊次	46
-----------	------------	----

新入会員紹介（正会員）

自己紹介	大塚記史	47
自己紹介	森田雄大	47
自己紹介	戚美玲	48

同門会総会議事報告		49
-----------------	--	----

教室同門の研究業績（2010年度）		51
-------------------------	--	----

編集後記		74
------------	--	----



現況報告

(松元先生への感謝をこめて)

社会保険宮崎江南病院

益山松三

平成24年6月5日現在、江南病院は松元征徳先生のもと、益山松三、坂田勝美、長澤誠の4名で診療にあたっております。午前中は毎日外来（2診制）を行い、基本的に毎日午後には手術を行う日々であります。

事務のまとめたデータを見ますと、外来数は新患含めて70名前後ですが、坂田先生の担当の月曜日と金曜日は明らかに有意差があり、90名（新患15名）を超えることもしばしばあります。昨年9月から赴任した坂田先生は日増しに笑顔が少なくなっていますので、Facebookで悲観的な投稿をされたときは、益山まで至急連絡をください。また学会等で見かけたら（外来も病棟も頑張っているなぁ〜）など暖かい声をかけていただければ幸いです。

外来に話は戻りますが、特に11時過ぎからじわじわと増えてくるため、整形外科の前はミニ集会の様相を呈しています。新患の患者さんに話を聞くと、（江南病院には腰の名医がいるから）という理由が多いようです。

（近所の人が腰の手術をしてよくなった）というのもよく耳にします。確かに脊柱管狭窄症の方が占める率が高く、江南まつもと整形外科が完成する秋口からは、きっと外来が楽

になるだろうと信じて、毎日をのりきっています。患者さんのほかの意見として（江南病院の整形の医者は優しい）というのも昔はよくありました。最近少なくなったようですが、ほんぶ整形外科の開業とは因果関係はないと信じています。話は横道にそれてばかりですが、病院周囲の開業の先生方から、手の外科から脊椎にいたる幅広い多数のご紹介をいただいています。みなさん基幹病院の部長として経験豊富な先生方ばかりですので、手術適応の判断等において我々が勉強になることが非常に多く、幾つになっても教えていただくことばかりで恐縮です。今後とも先輩方のご指導いただければありがたいと思っておりますし、少しでもopenhospitalに近い形態をとって、開業の先生方にとっても我々にとっても、有益で有意義な関係を続けていければ願っております。

午後からはほぼ毎日手術をしています。昨年度は整形外科単独の338例の手術に加えて、形成外科との共同手術が30例ほどあったようです。形成外科は長崎大学から派遣されており、大安部長のもと計4名の先生で診療にあたっいらっしゃいます。神経血管損傷を合併するGustilo-Cなどの重症症例が県内

各地から紹介されており、24時間365日オンコール対応されています。わたくしが日南に赴任していた時もずいぶんお世話になりました。ひとりの宮崎県民としての立場に立つと、長崎から派遣されて宮崎の医療を担っていただいていることに本当に感謝するばかりです。また我々整形外科も前腕や下腿などの症例に対しては今後でもできる限りの協力をして、ともに江南病院の発展に貢献できたらと思う次第です。

整形外科の手術に関しては、先述のごとく頸椎、腰椎の変性疾患から、多種多様な外傷疾患、OA-hip・kneeなど多岐にわたります。松元先生の手術は脊椎に限らず、常に理論的で非常に安全かつ丁寧な手術をされます。本部先生もそうでした。適応をしっかりと見極めて安全な手術をすることの大事さを、我々は2人の部長から教えていただきました。まだまだ未熟ではありますが、すこしでも受け継いでいけるように精進していきたいと思えます。

病棟のほうは一般病棟が40-45名、回復期リハビリ病棟が25-30名ほどで構成されています。病棟改築に伴い一時期病床数が減少し、紹介転院などが遅れてご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。工事もほぼ終了間際ですので、リハビリ依頼転院などで、大学病院や基幹病院のベッドコントロールに貢献できればと思っています。

数年前の整形外科合計100床に比べると減ってはいますが、仕事量は同程度かむしろ増えている印象です。長澤が文句も言わずに

(顔には若干不満が出ていますが?)頑張ってくれています。日整会の4連投と合わせて、大活躍です。

以上、同門会誌への投稿文ということで、これでもかと忙しさをアピールしてばかりとなりましたが、結構チームワークよく仕事していると思っています。個人的には前厄入りした途端、いろいろな病気を患ってへこんでいましたが、お揃いの白衣やスクラブを着て、お揃いの医療用サンダルまで購入して楽しくやっています。松元先生が開業され大黒柱を失いますが、きっと水曜日の午後月に2回くらいは、脊椎手術の執刀を引き受けてくださると信じていますし、症例の相談なども含めて粘り強くお願いしたいと思っています。

また、新たな主任部長のもと、一致団結して診療にあたっただけです。諸先輩方には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

長文、乱文失礼しました。



宮崎市郡医師会病院の紹介

宮崎市郡医師会病院

福元 洋一

宮崎市郡医師会病院は、宮崎市、国富町、綾町における地域医療の中核として昭和59年4月に開設され、現在では宮崎市・東諸県郡以外の地域からも多く受け入れております。以前は、田んぼに囲まれたのどかな場所でしたが、イオンができてからはかなりにぎわうようになり、時々イオンからの急患も搬送されてきます。周囲もいろんな店ができてきて栄えるようになり朝夕や休日など渋滞するようになり、急患などで呼ばれた場合など逆に煩わしさを感じる時もあります。

さて、医師会病院の病床数は248床で整形外科の他に外科、産婦人科、心臓血管外科、循環器内科、緩和ケア科と小児診療所を有しておりますが、小児診療所は県立宮崎病院との統廃合が決まっており、また残念ながら内科不在のため内科疾患を合併した患者さんの対応では苦慮しており、特に高齢者が多いため他院へお願いすることもあります。当院は、紹介型の病院で一般外来は行っておりませんが、一般病院や開業医の先生方からの紹介や救急車に対応しており日々急患と手術に明け暮れております。また、夜間急病センターも併設されているため夜間の対応も多く昼夜関係なく診療を行っております。手術に

関しては、主に外傷が中心にはなりますが、人工関節を含めた慢性疾患などの手術も行っております。手術件数も年々増加して去年の手術件数は約720件となりました。特に高齢者の大腿骨近位部骨折に関しては、全国でも有数の症例数を誇っており去年はγ-nailが213件、人工骨頭挿入術が108件、ハンソピンが51件とうなぎ上りに増加しており、やはり高齢者ですので術後合併症や術後管理に苦勞しております。その他にも小児骨折を含めいろいろとバラエティに富んだ手術を行っておりますので、若い先生方で積極的に手術をやりたい方はぜひ医師会病院で研修していただければと思います。最後に今後とも宮崎市郡医師会病院をよろしく申し上げます。



宮崎善仁会病院

宮崎善仁会病院整形外科

黒田 宏

当院は平成15年3月に市民の森病院の外科系部門が分離独立して設立されました。開院当初は回復期病棟がありましたが、現在では全ての病棟が急性期になっています。病床数は106で、科毎の定数はありません。整形外科の入院患者は平均40人程度です。

外来は整形外科の一般外来が月曜から土曜までの午前中にそれぞれ曜日ごとに担当を決めて行っています。このほかりハ外来を、曜日を決めて週5回行っています。リハ外来は主に急性期のリハを行っており、マンパワーの関係から当院術後の患者さんが中心で、リハ紹介は申し訳ないと思いつつもお断りしています。

手術は月曜の午後、火曜から金曜は終日行っています。平成23年度の手術件数は5

64例でした。救急外来がある関係で骨折などの外傷が多く、このほかRAやOAに対する人工関節や関節形成術を行っています。手術は基本的に主治医執刀で行っていますので、たくさん受け持つと、たくさん手術が出来ます。ちなみに昨年度の執刀No.1は日吉先生の218例でした。今年度は甲斐先生が2週間で16例という記録を打ち立てました。このペースでいくと一人で年間400例になります。

毎日が外来、手術と大忙しです。このままでは身体がもちません。せめてあと一人メンバーが増えるといいなと思っています。これは切実なる願いです。ご検討いただくと幸いです。



宮崎県立こども療育センター

宮崎県立こども療育センター

柳園 賜一郎

当施設は昭和34年に県内唯一の「肢体不自由児施設」である「県立整肢学園」として設立されました。昭和63年には「県立こども療育センター」（以下センター）と改められ、現在の清武町にある福祉ゾーンに移転しました。今年度の障害者自立支援法の改定により、50年余り馴れ親しんだ「肢体不自由児施設」から「医療型障害児入所施設」へと名称変更されました。これに伴い様々な変革を迫られている現状があります。

入所部門では約40名弱のこども達が入所生活をしています。殆どの児童が隣接する「きよたけせいりゅう支援学校」に通学しています。児童の中には小学部から高等部まで12年間をセンターで過ごす子もいれば、治療目的で数ヶ月入所し、地元の学校へ帰っていく子もいます。近年入所児童の大半は「重度心身障がい児」と呼ばれる運動、知的障がいの他、てんかんや摂食、嚥下、呼吸などの小児科的合併症をもった児童が占めています。1名の常勤小児科医のアドバイスを仰ぎながら対応していますが、法改正に伴い更に重度の患者さんへの対応を求められて苦慮しているところです。

センター内には手術室があり、年間約40

件程度の手術療法を行っています。症例は脳性麻痺に対する筋解離術が多いですが、先天性股関節脱臼後の臼蓋形成不全やペルテス病、内反足などの小児整形外科疾患に対する手術も行っています。

リハビリテーションは理学療法士8名、作業療法士3名、言語聴覚士1名が勤務しており、入所児童はもとより、発達に問題のある障がいをもった外来の方々にも対応しています。地域リハビリテーションの充実を目指して平成18年より「地域リハビリテーション研修事業」を開始し、県内各地に小児リハを研修された療法士が育成されてきております。センターと地域医療機関が、今後更に密接につながることで、障がいを持ったこども達はその地域で生活しながら、充実したリハビリテーションを受けることができるようなと考えておりますので御協力宜しくお願いいたします。

整形外科の外来診察は毎週月曜（午前・午後：再診）、木曜（午前：新患・再診）、金曜（午前：再診）の時間予約制で行っています。現時点では整形外科3人で対応させて頂いております。

疾患別には約40%の患者さんが脳性麻痺

を中心とした麻痺性疾患及び精神運動発達遅滞です。整形外科疾患では先天性股関節脱臼、内反足、O脚などのアラインメント異常が多いです。脳性麻痺の痙性麻痺治療において「ボツリヌス療法」は全国的に広がりを見せています。センターでも平成17年から投与を開始し、昨年度は年間107例の投与を行いました。手術療法、ギプス療法、理学療法を組み合わせることで、機能改善に役立っています。先天性股関節脱臼については、超音波を使った重症度診断に基づき、治療方針をたて、リーメンビュージェル装具、牽引治療、広範囲展開法による観血的整復術、骨切り手術などを適応に従い継続して治療しています。先天性内反足についてはPonseti法の治療体系に基づき矯正ギプス治療、装具療法を行い、変形遺残例には後内方解離術を中心とした手術療法で対応しています。またセンターには三次元歩行分析装置が設置されており、専用の分析室があります。歩行障害を持つ麻痺性疾患の評価に用いており、客観的な

治療効果判定、治療適応決定に役立っています。

またセンターは設立当時から、地域療育の充実のために県内各地の保健所、児童相談所、支援学校に巡回相談を展開しております。特に県北からの患者さんの利便性を考慮し、県立延岡病院をお借りして診察を行う巡回診療も始めて3年目を迎えます。関係される先生方にはいつもお世話になっております。

加えて後期臨床研修医の地域研修や、医学部生の臨床研修など積極的に受け入れており、教育的な役割も果たしていければと考えております。

同門の先生方には患者さんの御紹介や御相談など何かとお世話になることが多く、いつも感謝しております。センターの役割を果たして行けるよう職員一同頑張っておりますので、今後とも御指導宜しく願いいたします。

追記

昨年度ホームページを開設しました。



アドレスは<http://www.kodomo-ryoiku.pref.miyazaki.lg.jp/>です。



弘潤会 野崎東病院

弘潤会 野崎東病院 整形外科
久保 紳一郎

教室・同門の先生方には常日頃よりたいへん御世話になり感謝申し上げます。

当院は、宮崎市の北部、飲食店の立ち並ぶ大島通線通りに位置し、病室からは「バブルの塔」ことシーガイアがすぐ近くに望めます。現在、常勤にて内科・泌尿器科・放射線科・整形外科の4つの科があり、ベッド数96床のうち整形外科が約60床以上を占めます。現在、整形外科は田島名誉院長・野崎・井上・野中・久保の5人で診療にあたっています。

当院の特徴としてまず、田島名誉院長のライフワークであるスポーツ整形と脊椎疾患の患者さんが多いことが挙げられます。スポーツに関しては、併設のアスレティックリハビリテーションセンター「FUNCTION」を拠点として、理学療法士・スポーツトレーナーによるアマチュア～プロすべてのレベルのスポーツ選手の熱心なサポート活動を行っており各方面から御評価頂いております。そして手術を要する患者さんは、井上Dr.を中心に大学からの応援も得て肩・膝・手関節などの関節鏡視下手術を積極的に行っておりまた常に新しいことに取り組んで行こうとがんばっています。

次に脊椎分野においては、早期に各種画像検査（MRI・CT・DEXA）が可能のためそのぶん早期診断につながる事が利点として挙げられます。疾患としては椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの脊椎変性疾患が主流ですが、発症早期の保存治療から手術までトータルで診ることができます。また、大学病院・県立病院のような総合病院とは異なりハイリスクな手術はできませんが、患者さんと医療従事者の双方への低侵襲を考慮し除圧は全て顕微鏡視下（拡大老眼鏡とも言います）で、固定はできるだけMIS（筋鉤いらず）で行っています。さらにリハビリテーション部は脊椎患者のリハビリにもスポーツ同様熱心に取り組んでおり、脊椎外科医にとっても非常に恵まれた環境と言えます。ただ我々の力の及ばない患者さんにつきましては、大学病院にお願いすることが多いため大学、特に脊椎班の先生方にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

外傷・関節疾患についても野崎Dr. /野中Dr.を中心に診療にあたっており、整形外科を標榜する一般病院としては結構幅広い分野にわたって活動しています。

当院は地域に根差しつつ専門性の高い医療

の実践を心がけたいと考えておりますので、
これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではありますが当院の紹介とさ
せて頂きました。

追伸：御興味のある方は是非一緒にがんばり
ましょう。





宮崎県立日南病院の紹介

県立日南病院 整形外科

松岡知己

県立日南病院は宮崎市より50km南の人口6万人程度日南市の油津地区（木山1丁目）の海拔10mの少し高台にあります。

日南市は高齢化がかなり進み、さらに高齢者のひとり暮らしが多いです。

病床数は281床でそのうち整形外科は43床が定数です

整形外科以外に診療科は内科、循環器内科、外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、小児科、放射線科、麻酔科の常勤医師があり、皮膚科、神経内科は大学病院より非常勤で（週1～2回診察）、心療内科は休診です。リハビリテーション科は整形外科が兼務しています。

MRI、CT、エコー、DEXA、筋電図などの装置あります。

整形外科常勤は3名（定数4名）です。

外来患者数は23年度10041名で紹介率は33.8%でした。

平日午前中は毎日診察あり、午後は可能な限り紹介患者は診察しています。

入院患者数は23年度15901名で1日平均は43.6名でした。

手術数は23年度371例でした。

手術は大腿骨近位部骨折関係が90例あ

り、変形性関節症に伴う人工関節置換術が30例などやはり年齢に伴う疾患が多く、また交通外傷、労災など多発外傷の際は他科と連携して加療しています。

糖尿病、ASOなどでの下肢壊死での下肢切断も10例程度あります。

高齢で糖尿病、高血圧、心疾患の合併症が多く、内科、循環器内科、外科、麻酔科などにコンサルトし術前評価し周術期合併症を可能な限り回避しています。

また大腿骨近部骨折の連携パスを使用し中部病院、松田整形外科、川越整形外科、百瀬病院での転院でのリハビリ継続で在宅復帰率向上と在院日数短縮を図っています。

ただ、認知症合併も多くすべての患者が適応とならないのも現実です。

夜間、休日の救急患者も3人で365日24時間可能な限り受けています。23年度は653例でした。

かなり充実した診療を継続してやっている状態です。



(医)文誠会 百瀬病院

(医)文誠会 百瀬病院

上 通 一 師

私が本年4月より勤務させていただいている医療法人文誠会 百瀬病院は、現在、理事長である百瀬寿之先生が昭和39年6月に開院された病院です。日南市南郷町の目井津港から200m程度のところにあり、高く青い空(時々、黄砂でくすむ)と潮風かおる(時々、ちょっと濃すぎる時もある)さわやかな環境に立地しています。“地域のみなさまに親しまれて、心から愛される病院”をスローガンに医療技術、医療施設、看護体制その他あらゆる部門で地域の中核病院となるようスタッフ全員が努力されています。病床数は80床で一般60床、医療療養20床です。診療科目は胃腸科、外科、呼吸器科、循環器科、消化器外科、泌尿器科、腎臓内科、リハビリテーション科、リウマチ科、乳腺外科、甲状腺外科、一般内科で土曜日の午前中まで診療を行っています。平日午後も基本的には外来診療を行っています。常勤医師は院長である百瀬文教先生、内村好克先生、松尾佳一郎先生の外科の先生方と私の4人です。外科の先生方は高血圧症・認知症・脳梗塞後遺症などの内科的疾患から心機能検査や下肢深部静脈血栓症(以下DVT)の超音波検査までオールマイティーにこなされ、常日頃から大変お世話

になっています。非常勤で腎臓内科、心臓血管外科、泌尿器科の先生方も来られます。どこの施設でもそうだと思いますが、最近、90歳台の患者様も珍しくなくなり多くの既往を持った方もたくさんおられますので、術前検査から周術期管理まで、外来と病棟をみながら一人でこなせるかと着任当初は不安でしたが、周囲の先生方の暖かな協力をいただきながらなんとか頑張っているところです。毎週、火曜日、水曜日には猪俣先生、山口先生が応援にきてくださいますので、手術などはそれに合わせて行うことが多いです。

こちらは一人整形外科医としての多忙さはあるものの、前勤務の公立多良木病院整形外科と比較し外来患者数や手術症例も圧倒的に少なく時間に余裕があるため、院長先生にDVT超音波検査の御指導をいただいたり、外来患者様の話を以前よりじっくり聞いたりしています。ただ、多良木での忙しい日々が体に染みついているため、少し、体がムズムズします。

個人的な事情になるのですが、娘が中学に進学するにあたり、今回初めての単身赴任となりました。4月第1週まではかなり寂しい思いをしたのですが、県立日南病院の松岡先

生や大倉先生、福田先生からのお誘いや当院スタッフからの栄養会と称した飲み会が入るようになり、また、個人でも南郷駅周囲の主に居酒屋を中心とした飲食店と顔なじみになるにつれ、かなり楽しくなってきました。特にカレー鍋がおいしい“とり金”という店では益山先生が常連であったとのことで親切にしてもらっています。自分のことながら最近、少し制御が利かなくなってきたので

フェブリックなどの内服を検討中です。

できるだけ当科で手術を含めて治療を完結したいと考えておりますが、大学の先生方はもちろん、県立日南病院の3人の先生方や串間市民病院の川添先生、深野木先生には御迷惑をかけることも多々あるかと思えます。今後とも御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



串間市民病院

串間市民病院

川 添 浩 史

8年前わたくしが赴任したころ串間市民病院は、(当時は串間市健康保険病院でした。新病院移転とともに改名)それは、それは汚い病院でした。廊下の配管はむき出し、診察室の仕切りはベニヤ板、手術室のエアコンは〇が峰と書いてありました。場所も分かりにくく、串間と聞いてもせいぜい思い出すのは馬と猿と芋ぐらいでした。

それが7年前とってもきれいな病院に生まれ変わりました。現在内科、外科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、麻酔科が常勤で、非常勤で耳鼻科、皮膚科が診療を行っています。病床は120で地域の中核的病院です。

(ここしか無いといういい方もできますが)もちろんCTやMRIなどは新病院建設の際に導入されており一般的な診療は十分に行える体制です。

現在の整形外科の状態をざっとご紹介したいと思います。外来は午前中のみですが毎日行っています。2診体制での診察で、患者の数は80~100人程度(もちろん診察する数が)です。このため日々8時半にスタートした外来が1時半ぐらいまでかかります。そしてダッシュで昼食をとり手術に入る前に病棟に行つてなんやかんやして、2時から手術

です。昨年は約300件の手術を行っています。昨年麻酔科は常勤でいるのですが、1人しかいないため、整形以外の科の麻酔が優先され、整形は半分以上はセルフで麻酔をし、手術を行っています。(セルフ麻酔で手術のできる整形外科医も今後減り、麻酔科のいない病院では手術ができなくなるのではと危惧しています)手術が終わって、だいぶ疲労も蓄積されたころ、翌日の手術の説明や書類作成、最後に病棟回診で一日が過ぎていきます。毎日の診療の様子を紹介していくとだんだん愚痴になりそうなのでここからはざっとにして。

日本全体の高齢化社会のご多分にもれず、串間市の高齢化もなかなかのもので現在は65歳以上がすでに35%を超えこの点では他の自治体より前進?しています。このため圧倒的に外来は高齢者が多く、腰痛、膝痛など見る機会が多くなっていますし、当然のように頸部骨折、転子部骨折の手術機会も多くならざるを得ません。転子部骨折ばかりでは仕事の充実も得られないと思い、この地で本格的に人工関節に取り組み始め、ようやく地域にその事が浸透してきたようで(昨年はTHA、TKA、UKA合わせて約70件)、

最近は串間市のみならず、日南や志布志からの患者も増えてきています。一方で膝関節鏡手術も多く、中高生などの若年者だけでなく中高年以降の症例も多く、膝関節鏡も年間約70件行っています。どうしても年配の患者が多い中、私がスポーツ整形にかかわっていることも徐々に浸透し、日南、串間、志布志の中高生を中心にスポーツ選手の受診もかなりふえ、治療がうまくいってスポーツに復帰

ができたとき、通常の診療とはまた違う喜びも持つことができてます。仕事の量としては結構いっぱいいっぱいになってきてます。

(教授、助けてください)

宮崎県人さえなかなか行くことはなさそうな南の端っこに位置しているため、なかなか他の同門の先生方との接触も少ないのですが、存在を忘れずにいただけたらと思います。



宮崎県立延岡病院

宮崎県立延岡病院

栗原典近

県立延岡病院は昭和23年9月1日開設で、平成10年4月から現在の新病院となって病床数は460床であり、宮崎県北で最大で唯一の総合病院です。

愛宕山の麓にあり、旭化成、イオン（最近ジャスコからイオンになりました）がすぐそばにあります。

医師は54名で内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、心療内科、病理診断科、麻酔科、リハビリテーション科、周産期センター、救命救急センターと多岐にわたり、地域住民のニーズに応じています。また院内で脳神経センター、心臓血管センター、消化器センターを開設し、科を超えた診療の試みも行っています。

最近、院内の臨床研修医も宮崎大学、熊本大学から多いときでは7名を受け入れており、1～2ヶ月と短期ですが整形外科を研修する先生も増えております。

また最近の話題として本年度から院内託児所も設置され看護師の確保に努めています。

救急当直は2人で、1次救急から3次救急まで受け入れ、別にICU、HCU、NICU

当直が各々常時対応しています。症例は県北のあらゆる地域から紹介され、特に多発外傷など救命救急センターの受け入れ件数はH22年度で5700例を超えています。

また平成24年末にはヘリポートを設置した救急センターが新しく完成予定で、スムーズな患者の受け入れ、受け渡しが可能になります。

整形外科は現在5名で、外傷を中心に、脊椎疾患、人工関節も増加傾向にあります。外来日は月、火、木曜の午前中のみで、後の時間帯はほぼ定時、緊急を含めた手術をしています。外来リハビリも月、火、木曜の午前中のみとなっています。

整形外科の外来患者数は平成22年度でのべ7474名でした。

病床数は47床で、常に満床近く入っており、平成22年度入院患者数はのべ12457名でした。

手術件数は外傷を中心に年間計524例ありました。脊椎手術も年間30例おこなっており、他に関節鏡、靭帯再建なども行っています。研修される先生方にとっては多岐にわたる症例を短時間に経験でき、かなり勉強になる病院だと思います。

急患が多いため、骨接合術、人工骨頭などは受傷翌日、場合によっては当日に準緊急手術として行うことがほとんどです。

麻酔については、腰椎麻酔は自科で行っていますが、麻酔科医は常勤4名で全身麻酔も問題なく行われています。

特殊外来としてリウマチ外来を週1回行っており、不定期ですが大学病院から教授、濱

田先生に来ていただいております。難しい症例は大学病院から先生をお招きして手術を行っています。

なにぶん平均年齢35歳と若く、経験不足の部分が多いと思います。

これからも県北の機関病院として、がんばって参りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



高千穂町国民健康保険病院

高千穂町国民健康保険病院

塩月 康弘

高千穂町は九州山地のほぼ中央部、宮崎県の最北端に位置し、町の中心部を五ヶ瀬川が西北から南東にかけて貫流し、途中、名勝天然記念物高千穂峡が神秘的かつ雄大に自然に創出しています。気候は、平地の標高が約300メートル以上で夏・冬の気温差が大きく、四季の変化に富み自然環境が春の新緑、秋の紅葉となって観光資源の一環を成しています（以上、高千穂町役場ホームページより抜粋）。道路環境も徐々に整備されつつあり、車で延岡市内から50分、熊本市内から2時間とアクセスも良くなったこともあり、高千穂神社、岩戸神社、秋元神社などのパワースポット巡り、冬は夜神楽と、たくさんの観光客が毎年来られています。

昭和26年に診療所として開設され、以後増改築を繰り返しつつ、平成11年4月に現在の病院へ移転しました。高千穂町のみならず、整形外科医不在の五ヶ瀬町、日之影町からの患者さんも受け入れており、一般病床は120床（内科病棟60床、外科病棟60床）で、稼働率は常に90%前後を保っています。1日平均整形外科外来数は60数名、手術件数は年平均200件程です。観光地として賑わっているとはいえ地域住民の高齢化

は著しく、平成23年2月の統計で65歳以上の比率が33.6%（全国平均23%程度）となっています。そういったこともあり大腿骨近位部骨折の手術比率が最も高く、全体の4分の1を占めています。

月曜日から金曜日までの午前中は外来診療で（午前中に終わってしまうことはまずありません）、午後は手術と病棟業務を行っています。私が赴任した当初、常勤医は12名いたのですが高千穂も他地域と同様に医師不足の影響で現在は9名に減り、当直と救急搬送当番は院長、副院長を除いた7名で回している状態です。来年度には内科医がいなくなるかもしれないという恐ろしい噂もあります。あまりご存じないでしょうけど、標高が高いとはいえ高千穂は盆地ですので夏は30℃を超え、冬は毎朝氷点下に冷え込みます。坂道ばかりなので、雪が降った翌朝なんかは転倒したり、交通事故でケガする患者さんが多数発生します。医師数も減ってきてだんだんと住みづらくなってきている高千穂ですけれども、釣りが趣味の私にとっては幸いにもごく近くにポイント（山女魚、鮎、鰻、アブラメ、ドンカチ）が多数存在しますので、それほど苦痛には感じていないようです（笑）。

みなさんも一度高千穂にいらしてみてもいかが？





近況報告

国立病院機構 宮崎病院

安藤 徹

皆さん、川南町と聞いて何を連想しますか？開拓の地、川南合衆国？トロントロン通り？川南湿原？口蹄疫？あまりこれといった象徴がない町ですが、当院もそんな町にある歴史の長い病院です。川南町は宮崎県の中央部にあり、新富町、高鍋町、木城町、都農町で構成される児湯郡に属し医療圏は約8万人程度です。

以前の当院の病床数は結核病棟も含め一般病棟は5つの病棟300床と重症心身障害児病床120床を合わせ計420床と活性化した時期もありましたが、近年新臨床研修医制度のあおりをうけ医師数は徐々に減少、現在は一般病棟は60床で入院患者のほとんどを整形外科患者で占めています。

設備など院内環境は以前のまま残ってお

り、CT、MRI、各エコー検査、電気生理検査はすぐ対応可能で、手術室も効率よく整形外科患者の治療のため稼動しています。手術は年間350例程度で主に脊椎以外の手術をできる範囲で行っています。この数年は人工関節にも力を入れ年間60～70例と徐々にありますが症例数を増やしています。専門性を発揮することより地域のニーズにこたえるため幅広い疾患に対応できるよう心がけています。

当院へアクセスは高速道路の整備により市内中心部から車で約40分、大学からも45分と以前より随分時間短縮が得られ通勤エリアとしても可能な状況となりつつあります。

なにか違うアピールになりましたが、これからもこの病院をよろしく願います。



済生会日向病院紹介

済生会 日向病院
黒 沢 治

済生会は明治天皇より発せられた勅語により創立された社会福祉法人で全国に370施設あります。入院患者のなかで、生活保護、保険料減免を受けている患者さんの割合が一定数確保されることが必要とのことで生活困窮者に配慮した病院だそうです。また、済生会のホームページを見ますと創立50周年を記念して昭和37年に、病院並みの診療機能を持つ診療船として済生丸を造船しており、現在は、平成元年に進水したⅢ世号（166ト）が岡山・広島・香川・愛媛4県の瀬戸内海および豊後水道に浮かぶ66の島々を定期的に巡回し、年間約1万2,000人の方々の健康を守っているとのことです。（トリビアの泉？）

済生会日向病院の診療科は常勤医師がいる内科3名、外科3名、整形外科3名、小児科1名、脳神経外科2名、放射線科1名、麻酔科1名、検診1名と非常勤医師による耳鼻咽喉科、眼科で診療を行っており、病床数は2

04床で一般病床103床、回復期リハビリテーション47床、療養病床50床、感染病床4床となっております。手術件数は平成22年7月から平成23年6月までの1年間で外科、脳外科、整形外科の合計で582件となっております。

整形外科は現在、酒井副院長、内田医師と黒沢の3名で診療を行っており、外来は月曜日から金曜日の午前中で、午後は月曜日と木曜日に包交、回診、硬膜外ブロックやギプス巻き直し等の処置を行い、火曜日と水曜日に手術、金曜日は包交、処置を行います。火、水曜日で入らなかった手術を行っております。

手術に関しては酒井先生あての紹介患者と外来患者を内田医師と黒沢が分担して手術を行っております。手術内容は外傷以外では特に人工関節置換術を積極的に行っており、最近、徐々に手術件数が増加しております。



国立病院機構都城病院

整形外科の紹介

国立病院機構都城病院

税 所 幸一郎

国立病院機構都城病院は都城地域での唯一の公的病院として、一般急性期にかかる診療活動を提供しています。その医療圏は、都城市が県の西部に位置し、鹿児島県と接していますので、都城・北諸県地域はもちろんのこと、小林・西諸県さらには県外の曾於市・志布志市まで広がっています。ベッド数307床の病院で、診療科としては整形外科のほか内科、外科など十数の診療科があり、約30人の医師が勤務しています。整形外科は35床を3名で診ています。

当院は約100年前の明治42年に都城衛戍病院として創立されました。その後は陸軍病院となり、第二次世界大戦後の昭和20年厚生省に移管され国立都城病院として発足

し、平成16年4月に国立病院機構都城病院に名称が変更になりました。そして平成20年4月に待望の新病棟が完成しました。新病棟には個室が多く作られました。また大部屋は定員4人ですが、部屋の広さは以前の6人部屋の時よりも広がっており、プライバシーにも配慮されています。また同時期にリハビリ棟も完成し、現在は理学療法士も2名から4名に増員されており、術後リハビリも十分に可能となりました。さらに平成24年の3月には手術棟も新築されました。以前の手術室は古く狭く、透視装置が入ると身動きできない状態でしたが、現在は以前の2倍ほどの広さがあり、伸び伸びと手術ができるようになりました。また整形外科に関する医療機器としては、一般X線、CT、MRI、RI、血管造影装置、骨密度測定装置、超音波診断装置などの画像診断装置、また術中透視装置および迅速検体検査装置などが整備されています。

当院での整形外科の診療を宮崎大学が担当するようになったのは昭和61年4月からで、整形外科の最初の関連病院として少ない教室員の中から医師1名が派遣されました。現在は医師3名体制で診療を行っています。そ



新病棟の外観

して当院は日本整形外科学会認定研修施設および日本リウマチ学会教育施設として登録されています。外来は水曜日を除く月曜日から金曜日の午前中に行っており、1日40人～50人の患者が来院しています。手術は月曜日・金曜日の午後と水曜日の午前午後に行っており、1か月に20～30例行っています。当院整形外科の診療の2大柱は関節リウマチと一般整形外科です。関節リウマチについては、治療の基礎となる薬物療法ではMTXや生物学的製剤などを用い、病気のコントロールを図るとともに、破壊の進んだ関節には人工関節全置換術をはじめ、関節固定術などの手術を行っています。外傷などの一般整形外科については2次救急病院として広く患者を受け入れています。ただ都城地区では手術される整形外科の開業の先生も多く、当院へは開放性骨折や多発外傷など重傷または救急性のある患者や、骨関節感染症の患者は



新手術室の内景

か、小児や高齢の患者、糖尿病や透析の合併症のある患者の紹介が多くなっています。手術に際しては麻酔科の医師が3名常勤しており、手術に専念できる状態となっています。ただ合併症のある患者に対しては全身管理が必要であり、泌尿器科や内科などの診療科と連携しながら対応しています。とはいうものの整形外科医の負担は多く、また新外来棟も計画されており、整形外科医の増員が望まれます。



藤元早鈴病院

(社) 八日会 藤元早鈴病院
園 田 典 生

藤元早鈴病院は社団法人八日会（本院、藤元病院（精神科）、大悟病院（認知症、アルコール依存症）、藤元中央病院（循環器内科、泌尿器科：透析）の4施設の1つであり最も標榜している科が多い施設です。病床数は330床ですが常勤医は内科5名、循環器内科4名、消化器科2名、神経内科2名、呼吸器科1名、放射線科3名、放射線治療科1名、リハビリテーション科2名、療養科1名、脳神経外科5名、整形外科3名、外科4名、産科3名、泌尿器科2名、心臓血管外科2名、歯科口腔外科2名、耳鼻科1名、麻酔科3名、検診1名の47名の大所帯であるために各科に振り分けられるベッド数には限界があり現在の整形外科としてのベッド数は30床と少ないのが現状です。そのために周囲の先生方にはご迷惑をおかけしております。

私が赴任してから8年が経過しましたが当初は2人体制だったのが大学院生のF先生が



来られその後T先輩に来ていただき脊椎外科も加わり守備範囲が広がりました。T先輩が来られて患者さんが1つの車に乗りあいで受診されることが多くなり外来数も急激に増加しました。だからと言って我々の負担が増えたわけではなく（T先輩の患者さんは私やY先生の診察では納得していただけません）T先輩の体調を常に気遣っています。

1週間の診療内容ですが火曜日1日と金曜日半日が手術日として振り分けられており週平均6～7例の手術を行っています。3人同等に主治医制で入院患者さんを担当し原則、主治医執刀としています。手術に関して局麻症例以外は全例麻酔科管理で行えますので術中はストレスなく手術に集中できます。その他の平日は月曜3人、水曜2人、木曜2人で午前中外来診療を行い午後は病棟業務、関連施設、院内の他科からの紹介患者さんの診療が中心になります（T先輩は午前中だけでは患者さんが入らないために午後も外来診療されることが多くなっています）土曜日は午前中のみ外来を交代制で行っています。また1週間の半日（T先輩水曜、Y先生木曜、私が金曜日）は病院より研修時間として振り分けられており個々の時間として書類整理、学会

活動、論文研鑽などにあてています。しかし実際にはT先輩は脊椎造影などの検査・再診患者さんの診察、Y先生と私は一人でできる手術を行っているのが現状です。

手術症例の内訳はやはり高齢者の大腿骨頸部、転子部骨折が多く、その他の骨折を中心にした外傷、T先生がされる腰椎手術、私が行う関節鏡視下手術、週1回大学から来られるY先生の上肢疾患手術が主となっています。

また、特殊外来として私が大学在籍中に診療していたスポーツ外来は月曜日と木曜日の夕方に行っております。私が外来を行っている間はレントゲン技師、薬剤師の方々には診療が終了するまで待機していただいており特にMRI、CTなどの検査は時間外になりますがこちらの要望に合わせて撮影していただける環境です。スポーツ外来に受診される患者さんは都城近辺（都城市内、小林、えびの、鹿児島曾於市、大隅町、志布志町など）の中学・高校生が主であり成長期スポーツ傷害が診療の中心です。リハビリテーションを含め診療が終了するのは毎回21時ごろになりますがリハビリスタッフも興味を持ってがんばってくれています。おかげさまで受診を希望される方が年々増加しており数年前から完全予約制とさせていただきます。

以上、当院の現状を報告させていただきましたが大学の関連病院としての特色としては都城という宮崎市内と比較すると地方の施設になりますが総合病院（循環器内科・心臓血管外科・脳神経外科・透析、それと同じ敷地内に隣接する精神科があるのは都城近辺では当院のみです）であるために様々な合併症の

ある患者さんが紹介されてくることが多いことです。しかし他科の先生方（科によって宮崎大学と鹿児島大学から出向されています）も同年代の先生方が多く気軽に患者さんの件で相談できる環境にあり、その意味でも勉強になります。また、周囲スタッフの協力、理事長の整形外科に対するご理解（希望する手術・リハビリテーション機材等の準備は非常に迅速に行われますし今後の整形外科の診療の発展に関して賛同していただいております）をいただいておりますので研修施設としても十分な環境で診療をさせていただいています。忙しいなかでも朗らかなT先輩、これまで在籍期間2年というジンクスを打ち破ったY先生と3人で楽しく仕事させてもらっています。（毎朝8時と帰るまえに3人そろって病棟回診を行い回診が終わりその日の終了・撤収としています。そのことを以前来られた先生から軍隊生活と言われたことがありますが決して軍隊ではありません。）



平成23年度	1日外来数	平均106名
	年間新患者数	1533名
	入院数	平均30名
	手術件数	307件



公立多良木病院の紹介と

近況報告

公立多良木病院整形外科

浪平 辰州

球磨郡公立多良木病院は、熊本県球磨郡多良木町にあり多良木町・水上村・湯前町・あさぎり町の3町1村が参加する球磨郡公立多良木病院企業団が運営する病院です。球磨圏域唯一の自治体病院で熊本県のへき地医療支援機構の事務局が置かれていて要するに僻地というイメージですが九州自動車道人吉ICより約20km宮崎側、国道219号沿いに立地していて高速に約25分もあれば乗れどこへでもアクセスできる意外に便利な所です。4ヶ町村の人口は約3万3千人程で、しかもその高齢化率（65歳以上）は約33%に上っているので当然対象となる患者層も高齢者が大多数です。人吉球磨地域は自然がいっぱいで、春は水上村付近の満開の桜のもとでお花見、夏は球磨川・川辺川でのヤマメ・鮎釣り、そして秋は赤く染まった山々の紅葉、冬は温泉に浸かりながら風情を楽しんだり日本の四季をじっくり満喫でき、QOLは高いと思います。盆地なので夏蒸し暑く、冬はかなり寒いのが難点で、昼夜の温度差が激しく秋から春にかけては午前中ずっと霧に覆われてしまい、喘息持ちの人には辛い面があります。

さて当院は全199床で、整形外科は平成

21年5月から混合病棟から51床の単独病棟になりました。MRI（1.5T）もやっと平成21年6月から導入されています。電子カルテは来年度後半には導入の予定で、まだカルテが紙ベースなので書類が山のように多く赴任早々の先生方には慣れるまでが大変なようです。患者層は地域の高齢者中心で平成23年度で整形外来患者延べ数21734人、うち新患者数1944人、手術件数369例（手術室での手術件数）でした。外来は毎日2診で1日平均90名程度の外来患者をこなし、午後からはほぼ毎日ながしかの手術を行っています。高齢者の骨折、外傷を中心に自分達でやれる手術はなるべく行い、難しいものは大学の先生方の応援を戴いたりしてなんとか整形内科にならないようにと頑張っています。ただ当院も医師数の減少傾向にあり当直、日直が月に3～4回廻ってきて、ほとんど寝れないほど患者が来ます。また月に1～2日は午後の救急車対応の当番もありCPAや重症患者の初療対応もひとりではないといけないので整形以外のことがかなり重荷になってきている面や循環器内科専門の常勤医が不在になり周術期の対応に不安がみられるなどの問題が出てきていますが、ま

あどこの関連病院も似たような状況ではないでしょうか？整形の先生が疲弊しないよう、行きたくない病院と言われないよう配慮しているつもりですが・・・来てくださる先生方がみなパワー漲る方ばかりなので逆に助かっており感謝しています。

普段の外来は整形内科的色彩を帯びていて社会的入院の要請も多く苦痛ではあります。これらの患者の中から私どもにTKA、THAなどを依頼されてくる患者がやっと出てきているのでやはり信頼関係を築いていくことは重要だな、でも時間がかかるものだなと考えているこの頃です。周辺の医院などからTKA、THA等の患者を紹介して頂いたことはなく（大学の系列の違いって大きいですね）、地道に自分たちで切り拓いてきて最近TKA手術症例も増えてきました。ただ熊本(市)というところは有力な整形外科の病

院が林立していて外来で術前検査を済ませ、いざ手術となっても直前に遠方とか周囲の親族の方々より‘待った’がかかりキャンセル、市内の病院に紹介状を書いてくれということもしばしばであるのは仕方ありません。手術手技的なことに関しては情報僻地に近いのでどっちかという整形の日進月歩の変化について行けてないかもしれません。宮崎から遠くて申し訳ないのですが帖佐教授はじめ大学の先生方に技術指導に来て頂いたり、業者さんの協力で手術見学させてくれる施設があればどんどん活用して知識、技術を多良木病院にフィードバックするように努めています。

あまり参考になるようなことがなくてすいませんでした。地域（僻地）医療にご興味のある方は若いうちに一度ぜひ当院で勤務してみませんか？





NTT西日本九州病院

NTT西日本九州 整形外科

飯 干 明

当院は大正11年に熊本通信診療所として開設され、昭和17年に熊本通信病院へ昇格し、昭和22年から診療開始している歴史のある病院です。当初は電電公社の福利厚生施設でしたが、昭和56年に保険医療機関として一般開放されました。（しかし現在でも、当院はNTT職員しか受信できない病院と認識している方がたまにおられます。）

平成元年、電電公社の民営化とともに「NTT九州病院」、NTTの東西分営化に伴ない平成11年、現在の「NTT西日本九州病院」へ名称変更されました。近年のトピックスとしては、平成19年7月1日DPC対象病院に認定。平成21年5月10日から研修基幹病院に資格保持のため、救急告示病院となりました。そして平成23年7月1日、医療法人創起会として独立しました。これに伴ない、「NTT」の名称も平成24年6月30日までの使用期限となり、7月1日より院内で募集した新名称の中から選定された「医療法人創起会くまもと森都（しんと）総合病院」となります。また、今年4月1日より熊本市は政令指定都市となり、病院の現住所は「熊本市中央区新屋敷1丁目17-27」と若干長くなりました。

現在、病院はNTT西日本からの賃貸となっていますが、老朽化による弊害が目立ち始めてきたこともあり、近々、新病院建設し、移転予定です。

病床数は203床で、診療科目（カッコ内は常勤医師数）は内科が血液内科（4）、呼吸器内科（3）、代謝・内分泌内科（2）、腎臓内科（2）、肝臓・消化器内科（5）、循環器内科（1）と細分化され、今年4月からはさらにリウマチ・膠原病内科（2）も新設され充実しています。ほか外科（3）、眼科（3）、皮膚科（4）産婦人科（1）、整形外科（2）、麻酔科（1）、放射線科（3）、歯科・口腔外科（1）、健診センター（3）があります。研修医は5名です。勤務医は、当科以外は、熊大からの派遣です。

整形外科は、平成5年に宮医大整形外科前助教授の伊勢紘平先生と工藤勝司先生のお二人が赴任、平成10年伊勢先生の院長就任に伴い3人体制となりましたが、平成21年伊勢先生の退職後は、私と有住裕一先生の常勤2人体制となっています。

外来は月～金曜日の午前中2診と水、金曜日の午後1診で行っています。患者数は1日平均約60人前後です。疾患としては、変形

性膝関節症、関節リウマチ、痛風、腰部脊柱管狭窄症、変形性脊椎症などの慢性疾患が約7割、骨折や創傷などの外傷が残りを占めます。救急は主に当院かかりつけ患者の脊椎圧迫骨折、股関節周辺骨折ですが、最近是他院からの紹介や新患の交通外傷も増えてきました。

入院は当院かかりつけで、結構合併症がシビアな方（たまに人工呼吸器管理が必要な場合もあり）の脊椎圧迫骨折、股関節周辺骨折が多く、ほかに変形性関節症（人工関節）やリハビリ目的などです。1日平均約20人前後です。

手術は臍鞘切開などの主に上肢疾患に対す

る外来手術から、股関節周辺骨折に対する手術、人工膝・股関節（たまに再置換）など主に下肢疾患の入院手術を行っています。年間平均100例前後です。

リハビリテーションは、今年4月より2名から3名に常勤の理学療法士が増員されました。現在、運動器リハビリテーションは施設基準（Ⅱ）ですが、（Ⅰ）をとるために今後さらに増員を検討しています。また病院の施策として内科系リハビリテーションを拡充する方針が打ち出され、呼吸器リハビリテーション（今年3月施設基準（Ⅰ）の認定）も始めました。今後、心血管リハ、がんリハも視野に入れているようです。



下肢班の現況 2012

坂本 武郎

下肢班の対象疾患は、もちろん下肢全般ですが、股関節の関節温存手術、人工股関節置換術、人工膝関節置換術を中心に行っております。最近では再置換術、人工関節後感染、骨転移などの腫瘍性病変も増加しております。また創外固定を用いた下肢変形矯正や悪性腫瘍に対するカフェイン併用化学療法なども実績を上げてきています。

また、4月から救急救命センター&ヘリコプターが本格稼働し当グループからも3人の

スタッフをセンターに出している関係もあり多発外傷、骨盤骨折の数がかなり増えてきており、現在は正直若い？先生方の体力任せとなっている状態です。

関連病院の先生方には、多数の患者さんを紹介していただくのに、入院までに日数がかかったり、また術後の急な転院などで多大な迷惑をおかけしております。

今後ともよろしく申し上げます。



脊椎グループ紹介

増 田 寛

脊椎グループのメンバーは、黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、増田寛、大塚 記史（本年度新入局）が在籍しており、4月より戚美玲先生に新たに加わって頂いております。黒木講師をグループの長として少人数ながら日々の臨床、研究を頑張っております。

現在脊椎外来は火・水・金曜午前に行っており、金曜のみ黒木講師による側弯外来を行っています。各曜日の担当医師はホームページでご確認下さい。手術に関しては通常の腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症から側湾症、腫瘍など多岐にわたりますが、大学病院である関係上他医療機関で合併症などから手術困難と判断された症例が多くなっております。手術時間が短時間の症例であっても術前後の全身管理のため入院期間が長期にならざるおえなくなり、入院予約から入院までの期間が数ヶ月になっております。ご紹介頂いた先生方に大変ご迷惑を掛けております。現在仮病棟のためベッド数も減じており、新病棟に移った際には軽度改善するとは思いますが宜しくお願い致します。

ここ数年での脊椎グループのトピックスを紹介致します。

・棘突起縦割式椎弓形術 腰部脊柱管狭窄症

に対し行っており、一般的な椎弓切除に比べ傍脊柱筋に対する侵襲が少なく皮切も短くなります。

・バルーン椎体形成術 (Balloon Kyphoplasty ; BKP) 2011年1月より保険適応となり当グループでも圧迫骨折後偽関節に対し症例を選びながら行っております。

・ナビゲーションシステム 高度先進医療として承認されており術前のCT画像にて手術シミュレーションを行い、術中に挿入する椎弓根スクリューの位置をリアルタイムに確認することができます。スクリュー挿入の安全性・設置精度をより高めております。

・化膿性脊椎炎 高齢社会・コンプライズド・ホストの増加によるためか当科でもこの10年来増加してきております。起炎菌を明らかにすることが重要と考え、これまで行ってきた生検術に加えCTガイド下生検も当院放射線科と協力しながら行っております。

少人数ではありますが諸先輩方が築かれた脊椎グループの伝統を益々発展させるよう日々努力してまいりますので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、紙面をお借りしてあらためてお願い申し上げます。



上肢班の近況

大 田 智 美

早いもので私が大学病院へ戻らせていただいてから5年が経過しました。上肢・スポーツ班に所属し、上肢を中心に担当させていただいております。

平成24年4月現在の上肢班の近況をご報告します。

上肢班は矢野浩明先生、石田康行先生、4月から大学へ戻ってこられた村上恵美先生、中村志保子先生（旧姓山口）と大田（旧姓崎瀨）の5名のメンバーが所属しております。

診療に関しては、上肢外来（火曜：石田・中村、水曜：村上・大田、金曜：矢野）で、同門の先生方からご紹介いただいた患者様を中心に診察を行っております。外来では診察以外にも神経伝導速度・筋電図検査による神経疾患の評価、肩や手関節の造影検査による関節内の評価を行っております。さらにここ2～3年で超音波による軟部腫瘍・異物・関節軟骨や腱板などの評価を行い、できる限り安全で患者様の負担がすくない検査で診断ができるよう心がけております。

手術では、やはり上肢では良性・悪性を問わず腫瘍性疾患が多いと思います。腫瘍切除術を行い、必要に応じて皮弁形成や術後カ

フェイン併用化学療法も行っております。腫瘍の治療は大変な分野ではありますが、大学でしかできない特殊な疾患ですので、腫瘍専門病院とも連携しながら、精一杯取り組んでいます。その他には変形性指関節症・変形性手関節症（関節固定術など）、キーンバック病（骨切り・血管柄付骨移植術）、絞扼性神経障害（神経剥離・手根管開放術など）、機能再建（腱移植・移行術など）リウマチ性関節症（S-K法、人工指関節置換術など）、先天疾患（合指・多指症手術）の手術を行っています。さらに石田先生を中心に上肢関節鏡手術を行っています。腱板・バンカートに対する肩関節鏡、リウマチ性滑膜炎・変形性関節症・離断性骨軟骨炎に対する肘関節鏡、TFCC損傷・橈骨遠位端骨折に対する手関節鏡と、上肢すべての関節鏡手術を行い、スポーツ班の先生方からご指導いただきながら、さらなる技術の向上を目指しています。

大学病院では本年4月から救急部が正式に発足し、ドクターヘリなどによる救急患者搬送件数が増加しております。救急部内での麻酔・緊急手術が可能となり、今後も外傷は増える見込みですますます頑張ろうと思っています。

学会では宮崎整形外科懇話会、西日本整形災害外科学会、九州手外科学会、日本手外科学会、日本肩関節学会、日本肘関節学会など、地方会から全日本学会まで発表を行い、論文作成も行っています。私ごとではありますが、現在大学院に在学し研究をしています。今後整形外科・上肢班にアカデミックな考えを持って取り組んでいけたらと思っています。

上肢・スポーツ班は平成12年に旧上肢班と旧スポーツ班が合併し現在に至っており、12年たっても先輩方が作られてきた協力体制は変わりなく、仲良く診療に取り組んでいます。

手術件数増加に伴い、同門の先生方に転院や外来通院をお願いする状況が増えており、大変ご迷惑をおかけしておりますが、宮崎の上肢診療を発展できるよう日々努力してまいります。



スポーツグループの近況報告

田 島 卓 也

われわれスポーツ整形外科班は田島名誉教授のもと国立大学の中でも早期に設立され、黒木俊政先生、園田典生先生の歴代チーフより平成16年5月から山本恵太郎先生が引き継がれ現在に至っております。スタッフは平成16年より河原勝博先生、平成18年より田島卓也、平成21年より山口奈美先生が加わり、日々の診療、研究そして現場活動と忙しい毎日をお過ごししております。この間、河原が平成18年より大学院に進学し、無事に学位を取得しております。田島名誉教授、帖佐教授とスポーツ医学に造詣の深い先生方に支えていただいて、とても活動しやすい環境となっています。また、上肢・スポーツグループとして矢野先生をはじめとする上肢班、石田先生の肩・肘班と連携して10床をやり繰りして活動しています。術後早期に転院などで関連病院や同門の先生方にご迷惑をお掛けしているのが心苦しい限りです。活動内容としてはスポーツ整形外科外来（火：山本、水：山口、金：田島）、膝関節鏡・股関節鏡・足関節鏡などの下肢関節鏡手術（ACLだけでなく、再再建術や複合膝靭帯再建なども積極的に施行。平成23年は105例）、各スポーツ団体のメディカルチェック、学童

期運動器検診、スポーツイベントへのマッチドクター派遣や医事運営、スポーツキャンプへのサポートそしてサッカーやラグビーの様々な日本代表カテゴリーへのチームドクター帯同をおこなっております。また山口は女子サッカー日本代表に続いて女子ラグビー日本代表の帯同ドクターにも召集され、女子フットボールドクターの第一人者としての道を歩き始めています。もちろんこれらの活動はわれわれだけでは遂行できませんので、県内・教室内の先生方の御助力を得て何とかやり繰りしているのが実情です。

学術面としては、JOSKAS、日整会スポーツ医学会、日本臨床スポーツ医学会、九州山口スポーツ医学研究会を軸に積極的に演題発表をおこなっております。平成22年には山本が日本臨床スポーツ医学会優秀ポスター賞、河原が同優秀論文賞、田島が日整会スポーツ医学会研究助成学術プロジェクト賞を受賞し、また宮崎整形外科医学奨励賞を平成19年度に山本、平成22年度に河原、平成23年度に田島が受賞させていただきました。

また平成23年に河原の学位論文でもある「反張膝のACL再建術の歩行に与える影響」に関しての研究内容がKnee Surg, Sports

Traumatol, Arthroscopyに、田島の「B T Bと薄筋腱を併用したA C L再建術」のtechnical noteがSports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation, Therapy & Technologyにpublishされました。B T Bと薄筋腱併用のA C L再建術について平成24年にEuropean Society for Sports Traumatology, Knee

Surgery, Arthroscopyにてポスター発表しました(2012.5:スイス、ジュネーブ)。

今後も関連病院や同門の先生方のご期待に応えるべく、帖佐教授の御指導のもとスポーツ整形外科に関する診療、教育、研究に邁進していきたいと思ひます。





前医局長挨拶

～医局長を終えて、～

矢野 浩 明

2012年春、医局長を退任いたしました。2008年9月から務めさせていただきましたが、在任期間中は、多くの先生方に、色々な面におきましてご協力いただき本当にありがとうございました。また、配慮が行き届かなかった点や、ご希望に添えない点などもありご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。この場をお借りしましてお礼ならびにお詫びを申し上げます。

さて、在任期間を振り返りますと、政治の世界では自民党の福田総理突然の辞任から始まり民主党への政権交代を経て現在まで実に4名の総理大臣が交代しました。スポーツでは侍ジャパンの世界ベースボールクラシック連覇やサッカーワールドカップ南アメリカ大会ベスト16・大リーグのイチロー選手の日米通算3500安打、10年連続200安打・サッカー「なでしこジャパン」世界一など皆が勇気をもらえるような大活躍もありました。他にもリーマンショック・裁判員制度開始・小惑星探査機「はやぶさ」の帰還・チリ鉱山救出・伊達直人現象・尖閣諸島沖、中国漁船の衝突事件・中東・北アフリカの反政府デモ・世界の人口70億人突破・北朝鮮の世代交代・スティーブ・ジョブズ氏死

去（Macユーザーとしては重大ニュースでした）など今は昔と思えるような出来事が沢山ありました。特に自然において、今年の金環日食や2009年の皆既日食など（今回と同じように天気が悪くほとんど見ることはできませんでしたが・・・）、その神秘的現象に歓喜したり、予想を遙かに超える猛威を目の当たりにし、どうやって向き合っていくかなどこれまでで一番深く考えさせられました。特に我が県では、口蹄疫・鳥インフルエンザ・新燃岳噴火と災害が連発し、東日本におきましては大震災が発生しました。改めて、犠牲になられた方々のご冥福を祈りますと共に、被災されました皆さまには謹んでお見舞い申し上げます。

医局長として心懸けていたことは、まずは謙虚な気持ちで取り組むということでした。それから、教室主催の行事が滞りなく円滑に開催されることや、教室員の個々にそして、教室全体に活気が出るように何か教室のお役に立てればと思い、さらに、同門会の先生方や外部の先生方とのパイプ役になればと思い、教室のためにできる限りのことに取り組むということでした。

在任期間中に開催されました教室行事や出

来事などを振り返ってみますと、数多くの事がありました。特に就任直後の11月には、多くの先生方に協力いただき第116回西日本整形・災害外科学会が開催されました。本当にありがとうございました。満足行く学会になったのではないかと思います。特に渡辺信二先生は、企画立案から運営までリーダーとして御尽力頂きありがとうございました。また第39-46回宮崎県スポーツ学会や学校検診におきましては、山本恵太郎先生が指揮を執ってそれぞれ年々充実してきているようです。毎回本当にお疲れ様です。そしてありがとうございました。それから新たな試みとして熊本大学と大分大学と連携して中九州三大学病院合同専門医養成プログラム整形外科合同カンファレンスが3回開催されました。当大学代表として講演して下さった黒木浩史先生・山本恵太郎先生・そして石田康行先生どうもありがとうございました。その他に第57-63回宮崎整形外科懇話会、第178-205回三水会、第7-19回ひむか骨関節脊椎椎髄疾患セミナー、第3-19回ひむか運動器セミナー、第8-10回MOS S、宮崎県内AO勉強会、平成21-23年度新入教職員歓迎会などが開催されました。特に三水会におきましては、2011年5月に節目である200回を迎えることができとても嬉しく思います。その時には多くの教室員が大変御世話になりました元熊本市市民病院麻酔科部長の尾方信也先生より特別講演を賜り大盛況でした。それぞれの会におきまして、皆様よりご協力いただき滞りなく開催することができました。本当にありがとうございました。

いました。

教室内におきましては、医局旅行や忘年会などの企画・運営を厚生係を中心に頑張ってくださいました。2009年度には沖縄への医局旅行を企画していただきましたが新型インフルエンザの影響により中止となり、12月に忘年会を兼ねた北郷フェニックスでの宿泊という形で開催されました。2010年度は台湾でした。台湾の文化や食に触れることができ、帰国後は特に印象的だった衛兵の真似をする先生も見受けられました。とても楽しく有意義な旅行でした。2011年度は屋久島の予定でしたが、台風のためやむなく中止となりました。2009年度と同様に12月に忘年会を兼ねた形で開催されました。みんなの疲れ切った日常を健康で豊かなものにするために頑張ってくださいました池尻洋史先生を中心としました厚生係のみんなに感謝致します。

また人事におきましては、多くの教室の先生方に異動をしていただきました。引っ越しや引き継ぎなど何かと大変だったと思います。また各関連病院の部長をはじめ多くの先生方にご協力いただきありがとうございました。特に諸事情による緊急の異動や無理をお願いしての異動は何かと御苦勞をかけたのではないかと思います。深く感謝申し上げます。

教室が発展し継続するためには何が必要かと考えることよくありました。その中で欠かせないことの一つに『和』があると思います。スポーツにおいてもチームワークが良くなければなかなか良い結果は生まれません。

昨今取り巻く情勢は何かと不安定で、厳しい状態にあります。こんな時だからこそ、皆で特に一致団結し、邁進する必要があるかと思えます。ただ、そのためにはお互いが思っていることや考えていることを十分にぶつけ合って納得して、妥協ではなく協調して物事に取り組むことが必要ではないかと考えていました。

もう一つは、以前同門会誌のテーマにもなった『伝承』というものがあると思えます。すべての命に限りがあり、世の中のものがすべて受け継がれたもので成り立っていると思えます。卓越した凄い技術も場合によっては必要でしょうが、それが継承されなければ廃れてしまいます。先輩より受け継いだ技に更に磨きをかけ、それを熟成し、また次の世代へと継承する事が必要ではないかと考えます。そのためには、新人からベテランまで

不可欠だと思います。

折からの新臨床研修制度の導入で新入局員が激減している中、我が教室を選択してくれた6名の先生方には心より感謝申し上げます。先生方を教室員として迎えられたことは、誠に大きな喜びであります。

また、最後になりますが、病棟医長の濱田浩朗先生、外来医長の濱中秀昭先生、事務の島田まゆみさん 田原加奈子さん 川野実夏さん、そして教室員の皆さん、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。それから、同門の先生方には常々、多方面にわたりましてご協力・ご支援いただきありがとうございました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。今後は坂本武郎新医局長はじめ我が教室は新体制になりますが、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



医局長挨拶

坂本 武郎

今年より医局長に任命されました。歴代医局長のように務め上げることができるか非常に不安ですが、精一杯頑張りますので何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて昨年の出来事といえば、3・11に起こりました地震・津波そしてそれに伴う原発事故という未曾有の大災害につきます。日本全体が『絆』の強さ・力を見せ一步一步復興の道を歩んでおりますが、現地の様子を伝え聞いてもまだまだ完全復興にはほど遠い状態です。津波の大きな被害を受けた陸前高田市などはまだ整形外科医が一人もいない状態とのことで、近々当科からも県立高田病院に応援を出す予定となっております。まだまだ過去の出来事にするような状況ではないことを心にとめ、できることをしていかねばと思います。

今年度は3名の新入医局員を迎えることができました。しかしまだまだ開業される先生、都合により休まれる先生などの数に追いつくことができず、毎年実働人数は減ってい

く苦しい状況が続いております。大学医局では今後とも学生・研修医への情報提供・勧誘を積極的に行い医局員確保に努めたいと考えております。また関連病院で研修した学生・研修医から「〇〇病院の他の科を回ったときに整形の先生がよくしてくれたので整形を研修先に加えたい」といううれしい声を聞く反面、「△△病院で整形の先生に冷たくされたから整形希望はやめた」という残念な声を聞くことがあります。関連病院の先生方がご多忙で相手している時間がないというのもよくわかりますが、まずは研修先に整形を選んでもらわないとなかなか入局まで持って行けませんのでなにとぞ御協力よろしくお願い致します。

同門・関連病院の先生方からの増員要請にもなかなか応えることができずご迷惑をおかけしておりますが、なんとか環境改善へ向けて努力して参りますので今後ともご協力・ご支援のほどよろしくお願い致します。



第6回宮崎整形外科医学奨励賞 を受賞して

田 島 卓 也

この度は栄えある宮崎整形外科医学奨励賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。今回の受賞テーマは「ラグビー競技会における安全度評価と救護システムの確立」ですが、これはもちろん自分ひとりの力では成し得なかった研究です。教室の先生方、関連病院、同門の先生方のお力添えがあっはじめて達成できたものであると思います。

私は小学生のころからラグビースクールで競技を開始しました。当時は小児ぜんそくを患っており、それを克服するために両親のすすめで始めました。当時の長崎ラグビースクールにはコーチのひとりとして長崎大学医学部整形外科の鈴木良平教授がおられ、その指導のもとちびっこラガーとして走り回っていました。その後、中学卒業までラグビースクールに通い、長崎北高校、宮崎医大とずっとラグビーを続けてきました。私自身、膝MCLⅡ度損傷、腓骨骨折、足関節外側靭帯Ⅲ度損傷、たび重なるハムストリング肉離れを受傷しましたが、頭頸部の重症事故は幸いながら受傷せずにここまで来れました。選手時代は何も考えずにプレイしていましたが、大学を卒業しスポーツ医学を勉強していくうちにラグビーにおける頭頸部を中心とした重症

事故が頻発している事実に驚きました。NZ、イングランドなどのラグビー強豪国では年間に1-2例の発生に対し、日本では15-20例もの重症事故の報告があります。他国との重症事故の規定に若干の相違があるのは否めませんが、少なくとも日本協会の規定においての重症事故が生じているのは事実です。ラグビーにおける重症事故対策としてはその発生予防に論点が集中しており、いかにして防ぐか、そのためにはどのようなスキルが必要で、どのような練習が必要かが従来の論点であり、発生後の対応についてはほとんど議論されていないのが現状でした。

そのような状況の中で、ラグビーの重症事故対策には予防と発生後の対応の2本柱が重要で、発生後に速やかな対応をすることで麻痺等の後遺症を少しでも減らすことができるのではないかとこの視点のもと、ラグビー競技会をとりまく安全度の客観的な評価基準を作成しようとのプロジェクトが立ち上がりました。このプロジェクトの発案は私ではなく、当時宮崎県ラグビー協会メディカル委員長であった柏木輝行先生が発案されました。以後、柏木先生と様々な点で協議検討し、素案である柏木案ができました。ベースとなるも

のは現在の評価法とほぼ同じで、競技会の安全度を規定する因子を①スタッフ（レフリー、ドクター、メディカルサポーター）②環境（天候、気温、湿度、グラウンドの性状）③救急体制（救急隊到達時間、搬送時間、後方支援病院）の3つに分類し、各々ABCの評価をおこない、その組み合わせで競技会の総合的な安全度を決定するという斬新な評価法でした。柏木隊長のもと、私が手足となり現場に足を運びひたすらデータ収集と安全に対する啓発をおこないました。当初はマッチドクター派遣ということがまだ珍しい時代で、年に3-5競技会からしか派遣依頼はありませんでしたが、徐々に現場指導者にも安全への意識向上が浸透し依頼件数は右肩上がりで、平成23年度は33競技会から依頼がきて出務日数は58日、担当試合数は336試合となりました。もちろん私ひとりではカバーすることはできませんので、医局の先生方、同門の先生方そして後方支援病院となる各地の中核医療施設の先生方の御協力を得て何とかやってまいりました。医療機器の発達や昨今の運動中の突然死の事例もあることから、途中でAEDの評価項目をいれるなど若干modifyしながら評価を継続し、ようやく10年分のデータが蓄積しました。この10年間で宮崎でも6件の重症事故が発生しておりますが、幸いにも安全度Aの競技会で開催された事例ばかりで、速やかな現場の判断のもと適切な後方支援病院に搬送されたおかげで、全症例で麻痺等の重篤な後遺症はなく、もちろん死亡例もありませんでした。このことから発生後の対応は重要であるとの

証明ができたと思っています。

2002年にプロジェクトを開始してから安全度評価法に関する研究内容で日本整形外科学会スポーツ医学会で1回、日本臨床スポーツ医学会で4回発表させていただき、論文も3本掲載されました。これまでの努力が反映されたのか、平成22年度の日本整形外科学会スポーツ医学会研究助成学術プロジェクト賞に選出され、平成23年の同学会で受賞報告発表をさせていただく機会にも恵まれました。これも柏木先生が畑を耕し、種を蒔いていただいたおかげです。私はただひたすら水と肥料を与え続けていただけです。今回、このような賞をいただきましたが、発案者の柏木先生、マッチドクター業務をサポートしてくれた中村嘉宏先生、吉川大輔・教恵先生、黒木修司先生をはじめとする医局の先生方、後方支援病院としてサポートしていただいた関連病院の先生方、活動しやすい環境を整えていただいた帖佐教授、山本恵太郎先生をはじめいろいろな方に支えられての受賞であるとあらためて感謝申し上げます。今後も継続して評価をおこない、スポーツ医学およびスポーツメディカルランド宮崎の発展に微力ながら貢献していきたいと思っております。





西日本整形外科野球大会を 終えて2011

石田 康行

今大会でキャプテン2年目となりました。今回は産業医大が主幹で北九州での開催でした。前回は全国大会出場権を獲得できたのですが東日本大震災の影響で日整会が中止となりました。今回の組み合わせ抽選で不戦勝等の配慮をお願いしようかと思いましたがガツガツしてもと思ひ控えました。

今回の抽選会では、いつもマイナス思考で失敗しているので違ったことをしようと思いました。私の順番の段階で8番が2試合で全国大会出場権がとれる番号でした。8番が必ず出ると暗示をかけ、強気でくじを引きました。すると、8番が引けました。

1回戦は大分大学でした。松岡先生の好投で3回まで2-1でリードしているものの接戦でしたが4回に5点の追加ができ、8-1で勝利しました。

2回戦は熊本大学です。ここを突破すれば全国大会出場です。西医体優勝投手がいるチームでこの投手とはこれまで3回対戦しています。サイドスローからくる角度のついた速球と切れのあるスライダー、カーブの投手

です。相手はこれまで2試合消化しておりその投手も3連投のようでした。初回2点、2回に1点とることができ長澤先生の完封で3-0で勝利しました。

決勝戦は琉球大学でした。これまで、何度となく対戦してきたチームです。お互い高齢化が進んでいます。この琉球大学は暑さに強く、試合数が重なると強くなるタフなチームです。3回まで4-2でリードしていましたが4回に4-5に逆転されました。最終回となった4回裏1アウト満塁で松元先生が右中間に2点タイムリーを放ち、劇的なサヨナラ優勝を勝ち獲ることができました。

高齢化が進み、体力の衰えが感じられる反面、試合経験が豊富になり、試合の流れを考えたプレーや声かけができるチームになっています。試合に出た選手、ベンチでチームのために声かけしてくれた選手みんなで勝ち獲った優勝でした。野球ができる喜びを感じながら、全国大会でもチーム一丸となって頑張っていきたいです。同門の先生方の御支援、御協力に深謝いたします。



日本整形外科学術集会親善 サッカー大会

森 治 樹

私がキャプテンになってから3年ほど経過しました。今年のサッカーの予選は2月に鹿児島で行われました。昨年は突如、予選の組み合わせが変わり長崎で6チームで試合が行われ、決勝で長崎大学に延長の末、敗れてしまい遠く長崎から宮崎まで帰るのに疲れが倍増しましたが、今年は再び組み合わせが元に戻り、鹿児島大学と大分大学との3チームで行われました。結果は宮崎大学2-1大分大学、宮崎大学3-1鹿児島大学で見事、予選

を突破しました。昨年は東日本大震災のため大会自体が中止でしたが2年ぶりの出場です。今年は京都で行われますが、親善大会ですので怪我なく楽しく試合ができればよいと思っています。この大会に参加するにあたり、同門の先生方や快く大会に参加させて頂いた関連病院の先生方、日整会の期間、参加している先生の代わりに宮崎でお仕事をされている先生方にこの場でお詫びと感謝を申し上げます。



同門会ゴルフ大会（優勝）

について

三 股 恒 夫

同門会ゴルフ大会は、普段なかなか一緒にできない先生方との数少ない交流の場として最も大事におもっている大会の一つです。同門会入会以来ゴルフの調子のよしあしに関わらずできうる限り参加するよう心がけてきました。

数年前よりこわしていた体調も最近になりようやく回復し練習量もラウンド量も十分できるようになってはきましたが、なかなか成績に結びつかず、年齢のせいもあるのでしょうか90をきるのがやっという状態が続いておりました。もう何年も入賞することもなく

表彰式では入賞者への拍手要員としてすっかり落ち着いておりましたので、まさか優勝できるとは心にもおもっておりませんでした。本当に久しぶりのことで、うれしくて興奮してしまい優勝挨拶もしどろもどろで何を言ったかはっきりと覚えていない始末です。

私にとって最も大事におもっているこの大会で優勝でき大変光栄におもっております。同門の先生方特に今回一緒にプレイしていただき優勝へ導いてくださった先生方に心より感謝申し上げます。



同門会テニス大会(優勝)

について

谷 畠 満

平成23年11月23日に第15回同門会テニス大会が施行されました。

今回は何故か自分が優勝してしまったので、報告させていただきます。

メンバーは弓削孝雄先生、川野啓一郎先生、神蘭豊先生、福田健二先生、松本英裕先生、麻生邦典先生、尾田朋樹先生、渡部正一先生、私・谷畠満と、外部参加1名の計10名でした。

皆さん普段からテニスの練習に通っている方が多いのですが、渡部先生や私のように年に1回しかテニスをしなない者もおります。おかげで高校時代は週に1回は切れていたテニスのガットが、ここ数年は全く切れなくなりました。

大会の当日は朝から小雨が降っていて、前半は雨に打たれながら、後半はうって変わって強い日差しの中での悪条件でのテニスでしたが、和気あいあいとしてとても楽しい1日でした。

同門会テニス大会の面白いところは、点数の付け方が特殊なとダブルスで全員と組んで総当たり戦をするので、一番上手な人が優勝するわけではなく、運がかなり影響して勝者が決まる事です。

また親善試合ですので”今回は俺が優勝してやる！”と意気込む人もおりませんので、テニス半分、話し半分くらいで、とても楽しい会です。

こんな風に語るの、やはり新しい参加者・後継者が欲しいのです。若いエキスが欲しいのです！女性も大歓迎なのです！！

私が現在42歳で最年少で上は60歳後半ですので、みんな見た目は若づくりしていて元気そうですが、やはり何かしら体に故障を抱えています。

年に1回のテニス大会に合わせてそれぞれが体の調整をしていますが、誰か体調が悪くなって欠席者が出ると元々人数が少ないので、大会の運営に支障をきたす可能性があります。

さすがに全くの初心者に参加してくれとは言いませんが、少しでもテニスラケットを握った事がある方なら全く心配ありません。

あ、骨密度がYAM60%未満の方は厳しいかもしれませんが・・・。

というわけで、少しでもテニスに興味がある方は大歓迎ですので、メンバーにご連絡いただければ幸いです。





第7回帖佐杯に優勝して

江夏整形外科クリニック

江夏 剛

父に誘われ始めたゴルフももう30年ほどになる。ゴルフを始めたといっても自宅の絨毯でパターやアプローチの練習程度が主で、練習場での打ちっぱなしは1か月に一度程度父のおさがりのマクレガーの錆びついた薄い7番アイアンとグランドモナークのパーシモンのドライバーを打たしてもらっていた。勤務医時代は年に4～5回ラウンドするくらいであったが、おさがりのクラブは大活躍していた。ここ4、5年は初めてクラブを自分のお金で購入し、練習場にも足しげく通い、仕事と家庭と夜遊びの3本柱の生活からゴルフを加えた4本柱の生活へシフトチェンジしている。

昨年の帖佐杯は73（35、38）の自己

ベストスコアを更新できた。同伴競技者（田島直也名誉教授、柳園先生、川野彰裕先生）に恵まれ、落ち込みそうになったらいろいろ助けていただいた。何の心配もなくラウンドできたおかげだと感謝しております。

去年、今年とある程度上達している感はあるが、なかなか思ったようにことが進まない。最近はストレスを発散しにゴルフに行っているのに、ストレスをためてゴルフから帰ってくるが多くなっているように感じる。ちなみに第8回帖佐杯は先日開催されたが、93（42、51）と散々の成績でそれからシャंक病に悩まされている。益山先生や森田先生と差して勝負できることを目指して日々努力している最中である。

賛助会員入会ごあいさつ

谷村整形外科医院

院長 谷村 俊次

昨年、栄えある宮崎大学医学部整形外科教室同門会に、賛助会員として入会させて頂きました。

自分の経歴を簡単に紹介します。

1949年11月1日 福岡県飯塚市生まれの62歳です。

中学まで筑豊で育ち、高校は鹿児島ラサール高、大学は九州大学医学部

1976年九大医学部整形外科入局し各関連病院で研修させて頂き、1988年3月現地に谷村整形外科医院（19床の有床診療所）を開院し今年で25年目になります。

勤務時代、おもに脊椎外科をやっていた関係で、開院して15年くらいは頸椎、腰椎疾患の手術をやっておりましたが、現在はオペ室も閉じ、サージアームケリソンパンチなど倉庫に眠っている状態です。

この10年の整形外科治療の進歩はめざましいものがあり、関節手術はもちろん脊椎手術においても鏡視下手術が増えて参りました。不治の病と言われた関節リウマチに対して、生物学的製剤の登場、骨粗鬆症の治療薬、人工関節置換術の進歩など目を見張る成果がでています。その一方でそれに伴うリスクも大きくなっています。

また宮崎県内の整形外科医療機関が100足らずに対し、弁護士の人数は100を超えている時代といわれております。従いまして、情けないことに、どうしても外来手術を含め日常診療自体が委縮しているのが現状です。

今後、宮崎大学医学部整形外科教室をはじめ同門会の諸先生方には、一方ならぬお世話になることと思いますが、宜しくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。入会ご挨拶に代えさせて頂きます。

新入会員自己紹介(正会員)



名 前：大 塚 記 史

生年月日：昭和56年8月1日

出身高校：妻高校

出身大学：昭和大学

本年度より宮崎大学整形外科に入局した大塚記史です。

宮崎県西都市妻高校出身で、昭和大学を卒業しました。

宮崎大学整形外科には、学生・研修医のころよりお世話になっています。

卒後研修終了・入局という節目を迎え、気持ちを改めてがんばっていきたいと思っています。

精一杯がんばりますので、御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



名 前：森 田 雄 大

生年月日：昭和59年3月8日

出身高校：延岡高校

出身大学：宮崎大学

今年度から、宮崎大学整形外科同門会の一員となりました森田雄大といたします。宮崎県延岡市出身、延岡高校→北九州予備校(2年間)→宮崎大学医学部と経まして研修も宮崎大学で研修医として勉強してきました。

小学4年生から柔道をしており、大学まで続け、大学からは合わせてヨット部にも所属していました。柔道もヨットも気軽に出来るスポーツでないため、現在あまり運動していない状況です。これからはゴルフを始めたいと考えております。

まだまだ日々の業務をこなすだけで精一杯ですが、勉強を重ねていき、諸先輩方とともに働ける日を楽しみにしております。ご指導の程、よろしくお願いいたします。



名 前：戚 美 玲

生年月日：昭和39年9月12日

出身大学：上海医科大学 医学部
1988年

最終学歴：東京医科歯科大学大学院
博士課程 2003年

今年4月からお世話になっている戚 美玲です。中国の上海医科大学卒業後、実家のある大連医科大学付属病院にて医師の仕事を始めました。海外生活に憧れ、1998年に東京医科歯科大学整形外科に入りました。四宮 謙一先生のもとで、9年間に研究生生活を経て、2007年に日本医師免許を取得し、再び本格的に臨床の仕事をし、今年4月に家族の都合で私は14年間にお世話になった東京医科歯科大学を離れ、寂しい気持ちで宮崎に来ました。来て早々体調を崩して、緊急入院、オベまでつらい経験をしましたが、宮崎のお美味しい空気と暖かい人心は私を慰めてくれました。本当にありがとうございました。これからもいろいろご迷惑をかけると思いますが、ご指導よろしく願いいたします。

同門会総会 議事報告

平成24年度総会：平成23年12月3日(土) 16:30~17:30 宮崎観光ホテル

1. 平成23年度 (H22. 10/1~H23. 9/30) 報告

(1) 会員状況 (平成23年9月30日現在)

正会員：155名、賛助会員：48名

(2) 会員動向

正会員入会：李 徳哲 先生 (平成23年 4月 1日付)

山口 洋一朗 先生 (平成23年 4月 1日付)

賛助会員入会：鶴田 明土 先生 (平成23年12月 4日付)

園田 定彦 先生 (平成23年12月 4日付)

物故会員：岡田 光司 先生 (平成23年12月31日付)

退会：山口 和正 先生 (平成23年 9月30日付)

教室人事：ホームページ掲載

結婚：河野 勇泰喜 先生

河野 雅充 先生

樋口 誠二 先生

開業：後藤 啓輔 先生 (平成22年10月12日)

福嶋 秀一郎 先生 (平成23年 1月 1日)

(3) 事業報告

H22年10月 6日(水)：第1回役員会 (年度始め) 「宮崎県医師会館」

11月 4日(木)：第2回役員会 「宮崎県医師会館」

11月23日(祝)：第13回同門会テニス大会 (優勝：尾田朋樹 先生)

12月 4日(土)：第3回役員会・総会・講演会・忘年懇親会「観光ホテル」
第6回同門会マージャン大会 (優勝：弓削孝雄 先生)

12月 5日(日)：第19回同門会ゴルフ大会 (優勝：森田信二 先生)

12月：同門会名簿・会則発行

H23年 4月 9日(土)：第4回役員会、新入生歓迎会「観光ホテル」

5月末：第22号同門会誌発行

(4) 教室支援 (留学、学会など)：

H22. 7/30~10/18 田島卓也先生

事務委託費・事務人件費

(5) 会計報告

平成23年度決算は監査報告があり総会にて承認された。

2. 平成24年度（H23. 10/1～H24. 9/30）事業計画・予算

(1) 平成24年度の予算案は総会（H23. 12/3）にて承認された。

(2) 役員会：第1回役員会（平成23年10月 5日、宮崎県医師会館）
第2回役員会（平成23年11月24日、ホテルメリージュ）
第3回役員会（平成23年12月 3日、宮崎観光ホテル）
第4回役員会（平成24年 4月14日、宮崎観光ホテル）

(3) 講演会：H23. 12/3

①講師：田島 卓也 先生

演題：『アメリカにおける膝関節靭帯再建術のトピックス』

(4) 奨励賞：H24. 4/14 第6回 受賞：

①田島 卓也 先生『ラグビーにおける安全度評価と救護システムの確立』

(5) 親睦行事：H23. 11/23（祝）：第14回同門会テニス大会

H23. 12/ 3（土）：第7回同門会マージャン大会

H23. 12/ 4（日）：第20回同門会ゴルフ大会

(7) 同門会会則名簿発行：平成23年12月

(9) 同門会誌第23号発行（平成24年6月）

*テーマ「関連病院紹介」

(10) 新入医局員歓迎会（第4回役員会）：H24. 4/14（宮崎観光ホテル）

(11) 教室支援（留学、学会など）：日整会野球大会、日整会サッカー大会

3. その他

(1) 平成25年度（H24. 10/1～H25. 9/30）総会開催予定：H24. 12. 8（土）

教室同門の研究業績

(2010年1月～12月)

◆著書

- 1) 変形性膝疾患症に対する運動療法・体操—ロコモ予防への取り組み—
帖佐悦男
ロコモティブシンドローム 運動器科学の新時代
医歯薬出版(株), p 383-387, 2010
- 2) アキレス腱断裂の病態生理と保存治療
帖佐悦男
見てまなぶ 整形外科看護スタンダードテキスト下肢編(共著)
(株)メディカ出版, p 144-146, 2010
- 3) 足関節・足部の解剖と機能
帖佐悦男
見てまなぶ 整形外科看護スタンダードテキスト下肢編(共著)
(株)メディカ出版, p 214-217, 2010
- 4) IV治療法「物理療法」
田島卓也, 帖佐悦男
Orthopaedics スポーツ外傷・障害診療実践マニュアル
全日本病院出版, p 189-194, 2010
- 5) II部位別疾患「肩の外傷」
石田康行, 帖佐悦男
Orthopaedics スポーツ外傷・障害診療実践マニュアル
全日本病院出版, p 22-28, 2010
- 6) 早めが肝心!子どもからのロコモ対策
帖佐悦男
NHK 今日の健康, NHK出版, p 82-85, 2010

◆原著

- 1) 宮崎県少年選手におけるメディカルチェック
—障害・外傷と関節弛緩性・筋柔軟性との関連について—
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 田島卓也, 園田典生, 田島直也
日本臨床スポーツ医学会誌, 18(1): p 59-66, 2010

- 2) 抗凝固薬・抗血小板薬内服患者の大腿骨転子部骨折に対する早期手術療法
小島岳史, 福元洋一, 森治樹
骨折, 32(1) p 103-106, 2010
- 3) Regulation of ER molecular chaperone prevents bone loss in a murine model for osteoporosis
Shin-ichiro Hino, Shinichi Kondo, Kazuya Yoshinaga, Atsushi Saito, Tomohiko Murakami, Soshi Kanemoto, Hiroshi Sekiya, Kazuyasu Chihara, Yuji Aikawa, Hideaki Hara, Takashi Kudo, Tomohisa Sekimoto, Taro Funamoto, Etsuo Chosa, Kazunori Imaizumi
J Bone Miner Metab, 28: p 131-138, 2010
- 4) 環椎外側塊スクリー法の安全性評価
久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 黒木修司, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 59(1) p 14-17, 2010
- 5) 腰椎後方椎体間固定術(PLIF)後骨癒合不良因子の検討
福島克彦, 後藤啓輔, 井上篤, 田島直也, 久保紳一郎
整形外科と災害外科, 59(2) p 275-278, 2010
- 6) 当科における脊椎手術後感染症例の検討
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 猪俣尚規, 黒木修司, 比嘉聖, 河野雅充, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 59(1): p 1-7, 2010
- 7) 膝複合靭帯損傷例における後十字靭帯治療法の検討
深尾悠, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美, 崎濱智美, 山口志保子, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 59(1): p 178-182, 2010
- 8) 腸恥滑液包炎により大腿神経障害を生じた関節リウマチの一例
税所幸一郎, 坂田勝美, 吉川大輔, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 濱田浩朗
日本関節病学会誌, 29(1): p 95-100, 2010
- 9) 股関節疾患
帖佐悦男
関節外科, 29(4月増刊): p 88-98, 2010

- 10) Plasma adrenomedullin and proadrenomedullin N-terminal20 peptide in patients diagnosed as having early rheumatoid arthritis
Hiroaki Hamada, Kohiro Saisyo, Tomohisa Sekimoto, Etsuo Chosa
Mod Rheumatol, 20(4): p 389-395, 2010
- 11) 肩関節過外転で生じた bony PASTA lesion の1例
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 崎濱智美
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌, 35(3): p 468-471, 2010
- 12) 学校における運動器検診の実施について(2007-2008年度)
山本恵太郎, 帖佐悦男, 山口奈美, 福嶋麻里, 稲倉正孝, 佐藤雄一, 高村一志, 中村典生, 岡田光司, 田島直也, 平川俊一
宮崎県医師会医学会誌, 34(1): p 59-66, 2010
- 13) 【ロコモティブシンドローム 高齢社会における運動器障害の予防】
一般診療とロコモティブシンドローム 地域におけるロコモティブシンドローム対策
帖佐悦男
治療学, 44(7): p 791-794, 2010
- 14) 肩甲下筋負荷テストと鏡視所見の検討
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 崎濱智美
肩関節 別冊, 34(3): p 609-611, 2010
- 15) Locomotive Syndrome を予防するためのスポーツ医・科学的アプローチ-サポートシステムの構築-
帖佐悦男
日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 30(3): p 151-155, 2010
- 16) スポーツと腰痛
帖佐悦男
CLINICIAN 運動器の10年, (57): p 974-975, 2010
- 17) Effect of periacetabular osteotomy for acetabular dysplasia clarified by three-dimensional finite element analysis
XIN ZHAO, ETSUO CHOSA, KOJI TOTRIBE, and GANG DENG
Journal of Orthopaedic science, 15: p 632-640, 2010

- 18) 脊椎手術を施行した透析患者症例の検討
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎, 黒木修司,
比嘉聖, 長澤誠, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 59(3): p 432-436, 2010
- 19) 大腿筋膜張筋-腸脛靭帯拘縮に対し内視鏡を用いた腸脛靭帯節理術を施行した一例
長澤誠, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,
野崎正太郎, 池尻洋史, 中村嘉宏, 福田一, 日吉優
整形外科と災害外科, 59(4): p 788-791, 2010
- 20) 当科における超高年齢者の頸椎手術の術後成績
黒木修司, 久保紳一郎, 黒木浩史, 花堂祥治, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎,
比嘉聖, 長澤誠, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 59(4): p 757-760, 2010
- 21) 変形性肘関節症に対する鏡視下手術の治療経験
崎濱智美, 石田康行, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 深
尾悠, 河野雅充, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 59(3): p 533-535, 2010
- 22) 宮崎県高校女子バスケットボール国体候補選手 10 名に対するメディカルチェック 3 年間の調査結果
と問題点
山口奈美, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博, 田島卓也, 帖佐悦男, 田島直也
日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 30(2): p 79-86, 2010
- 23) 関節リウマチの合併症
帖佐悦男
はまゆう (社団) 日本リウマチ友の会 宮崎支部, (36): p 8-12, 2010
- 24) ダウン症候群に起因した環軸椎不安定症小児例に対する後頭軸椎後方固定術の経験
laminar screw 法の応用
黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 花堂祥治, 帖佐悦男
Journal of Spine Research, 1(10): p 1780-1785, 2010
- 25) 股関節の手術的脱臼法
帖佐悦男
整形・災害外科, 53(11): p 1306-1307, 2010

- 26) 棘窩切痕部ガングリオンに対する肩峰下滑液包からの鏡視下除圧術の短期成績
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美,
崎濱智美
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌, 35(2): p 338-341, 2010
- 27) 白蓋形成不全に対する寛骨臼骨切り術における回転角度の力学的検討
趙昕, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, 河原勝博, 鄧鋼
臨床バイオメカニクス, 31: p 137-141, 2010
- 28) 人工関節置換術におけるロングステム固定性の有限要素解析
鳥取部光司, 帖佐悦男, 趙昕, 渡邊信二, 河原勝博, 鄧鋼
臨床バイオメカニクス, 31: p 289-292, 2010
- 29) 反張膝に対する歩行分析
-正常および前十字靭帯損傷膝の検討-
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二
臨床バイオメカニクス, 31: p 415-420, 2010
- 30) 特発性側弯症に対する装具矯正能の評価 ぶら下がり全脊椎単純X線撮影の応用
黒木浩史, 猪俣尚規, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也
Journal of Spine Research, 1(11): p 1955-1959, 2010
- 31) 外側型腰椎椎間板ヘルニアの術後成績
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎, 黒木修司, 比嘉聖,
長澤誠, 帖佐悦男
Journal of Spine Research, 1(12): p 2144-2147, 2010
- 32) 骨盤・股関節・大腿部のスポーツ傷害とメディカルチェックのポイント
帖佐悦男
整形・災害外科, 53(13): p 1593-1599, 2010
- 33) 競技スポーツ帯同時に役立つ外傷初期治療ガイド 頻発するスポーツ外傷に対する処置・治療の実際
「ラグビー」
田島卓也, 帖佐悦男
臨床スポーツ医学, 27(臨時増刊): p 277-282, 2010
- 34) 脳性麻痺下肢痙縮に対するボツリヌス療法 of 歩行分析
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝寫葉子
日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会記録集, p 23-25, 2010

◆学会報告

- 1) 当科でのOHTによる先天性股関節脱臼の治療経験
福田一, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史, 中村嘉宏 日吉優
第26回九州小児整形外科集談会, 2010, 1, 福岡
- 2) 変形性肘関節症に対する鏡視下手術の治療経験
崎濱智美, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也 山口奈美, 深尾悠,
帖佐悦男
第31回九州手の外科学研究会, 2010, 2, 鹿児島
- 3) 骨盤輪骨折を伴う多発外傷症例の予後に関する検討
中村嘉宏, 寺井親則, 伊達晴彦, 松島俊介, 川本理一郎, 今井光一, 帖佐悦男,
坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩明, 野崎正太郎, 池尻洋史, 福田一,
日吉優
第35回宮崎救急医学会, 2010, 2, 宮崎
- 4) 総合型地域スポーツクラブ参加者の健康管理に関する研究
蒲原真澄, 鶴田来美, 長谷川珠代, 塩満智子, 宇野裕美, 帖佐悦男
第42回宮崎県スポーツ医学研究会, 2010, 2, 宮崎
- 5) 投球動作における肩関節運動と肩甲帯周囲筋の活動特性
—正常および投球障害肩での検討—
渡辺将成, 宮崎茂明, 平安堅吾, 鳥取部光司, 常盤直孝, 井崎守,
大迫亜矢, 帖佐悦男, 石田康行, 河原勝博
第42回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2010, 2, 宮崎
- 6) 反張膝に対する歩光分析
—正常および前十字靭帯損傷膝の検討—
河原勝博, 帖佐悦男, 渡邊信二, 山本恵太郎, 田島卓也
第42回スポーツ医科学研究会, 2010, 2, 宮崎
- 7) 遊離軟骨片の固定術を行った大腿骨外顆離断性骨軟骨炎の一例
川添浩史, 増田寛
第42回宮崎県スポーツ医科学研究会, 2010, 2

- 8) TBI-31を用いた高次脳機能障害者の検討
甲斐響子, 黒木美妃, 山口翔平, 帖佐悦男, 鳥取部光司
第32回宮崎リハビリテーション研究会, 2010, 3, 宮崎
- 9) 鏡視下腱板修復術後のクライオセラピーの効果について
平安堅吾, 屋嘉部愛子, 宮崎茂明, 石田康行, 鳥取部光司, 帖佐悦男,
藤浦まなみ
第32回宮崎リハビリテーション研究会, 2010, 3, 宮崎
- 10) 当院における高次脳機能障害の現状
山口翔平, 黒木美妃, 甲斐響子, 帖佐悦男, 鳥取部光司
第32回宮崎リハビリテーション研究会, 2010, 3, 宮崎
- 11) 骨・軟部腫瘍
坂本武郎
宮大がん診療部セミナー, 2010, 3, 宮崎
- 12) PEG造設後の現状と課題
谷口江美, 浪平辰州
第32回宮崎リハビリテーション研究会, 2010, 3, 宮崎
- 13) 蛋白漏出性胃腸症による低栄養状態の褥瘡患者に対して栄養サポートが奏功した一例
豊永恵子, 浪平辰州
第32回宮崎リハビリテーション研究会, 2010, 3, 宮崎
- 14) 超高齢者(90歳以上)の大腿骨近位骨折手術症例の検討
浪平辰州, 上通一師, 河野勇泰喜
第32回宮崎リハビリテーション研究会, 2010, 3, 宮崎
- 15) 環椎外側塊スクリュー法におけるスクリュー位置についての安全性評価
- C T reconstruction像を用いて -
久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎, 黒木修司,
比嘉聖, 帖佐悦男
第39回日本脊椎脊髄病学会, 2010, 4, 高知
- 16) 当科側彎症外来における脊柱側彎症初診時進行例の検討
黒木浩史, 猪俣尚規, 濱中秀昭, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也
第39回日本脊椎脊髄病学会, 2010, 4, 高知

- 17) 変形性手関節症に対する部分手関節固定術
矢野浩明, 崎濱智美, 帖佐悦男
第53回日本手の外科学会学術集会, 2010, 4, 新潟
- 18) Ninja を利用した関節リウマチ関連手術の分析—2008年度について—
税所幸一郎, 當間重人, 帖佐悦男, 濱田浩朗
第54回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2010, 4, 神戸
- 19) 関節リウマチ患者の膝窩部に発生した Lymphangioma の1例
濱田浩朗, 税所幸一郎, 関本朝久, 坂本武郎, 帖佐悦男
第54回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2010, 4, 神戸
- 20) 下腿義足の有限要素法による応力解析
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 坂本武郎, 野崎正太郎, 河原勝博
第47回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2010, 5, 鹿児島
- 21) 前十字靭帯損傷膝の歩行分析—男女別での比較—
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 濱田浩朗, 山本恵太郎
第47回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2010, 5, 鹿児島
- 22) 学校における運動器検診の実施—第3報—
山本恵太郎, 帖佐悦男, 福嶋麻里, 山口奈美, 田島直也, 平川俊一,
岡田光司
第83回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5 東京
- 23) 神経疾患に関連した脊柱側彎症の検討
黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也
第83回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5, 東京
- 24) 高齢者両側大腿骨近位部骨折症例の特徴と危険因子の検討
浪平辰州
第47回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2010, 5, 鹿児島
- 25) 脳性麻痺下肢痙縮に対するボツリヌス治療効果
—歩行分析による評価—
川野彰裕, 柳園賜一郎
日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会九州地区勉強会, 2010.5, 福岡

- 26) B T B と薄筋腱を併用した初回膝前十字靭帯 2 重束再建術の 3 例
長澤 誠, 山本恵太郎, 田島卓也, 河原勝博, 山口奈美, 矢野浩明, 石田康行,
崎濱智美, 帖佐悦男
第 1 1 9 回西日本整形・災害外科学会, 2010, 6, 福岡
- 27) 股関節前方アプローチにおける外側大腿皮神経障害に対する工夫について
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史
第 1 1 9 回西日本整形・災害外科学会, 2010, 6, 福岡
- 28) 骨盤輪骨折を伴う多発外傷症例の予後に関する検討
河野雅充, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史, 中村嘉宏, 福田一, 日吉優
第 1 1 9 回西日本整形・災害外科学会, 2010, 6, 福岡
- 29) 脊椎に発生した巨大神経鞘腫 8 例の治療経験
比嘉聖, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 福嶋秀一郎, 黒木修司,
長澤誠, 帖佐悦男
第 1 1 9 回西日本整形・災害外科学会, 2010, 6, 福岡
- 30) 寛骨臼骨折に対する機能的予後の検討
池尻洋史, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,
野崎正太郎, 中村嘉宏
第 1 1 9 回西日本整形・災害外科学会, 2010, 6, 福岡
- 31) 外側型腰椎椎間板ヘルニアの術後成績
濱中秀昭, 黒木浩史, 猪俣尚規, 増田寛, 福嶋秀一郎, 比嘉聖, 樋口誠二,
永井琢哉, 帖佐悦男, 久保紳一郎
第 6 0 回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 32) 上腕骨骨頭に発生した軟骨芽細胞腫の 1 症例
崎濱智美, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美, 長澤誠,
宮元修子, 帖佐悦男
第 6 0 回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 33) 当科における鏡視下腱板修復術の成功
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美,
崎濱智美, 長澤誠, 宮元修子
第 6 0 回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎

- 34) 馬尾症候群を伴った腰椎椎間板ヘルニアの検討
猪俣尚規, 黒木浩史, 濱中秀昭, 福嶋秀一郎, 黒木修司, 比嘉聖, 帖佐悦男,
久保紳一郎
第60回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 35) 膝蓋腱完全断裂に対し、Ecker法による再建術を施行した1例
小島岳史, 花堂祥治, 矢野良英, 柏木輝行, 塩崎猛, 田島卓也, 帖佐悦男
第60回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 36) 強直性脊椎骨増殖症(ASH)に合併した脊椎骨折の4症例
福嶋秀一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 黒木修司, 比嘉聖, 帖佐悦男
第73回西日本脊椎研究会, 2010, 6, 福岡
- 37) Locking compression plate(LCP)を使用した脛骨高原骨折の治療経験
上通一師, 浪平辰州, 梅崎哲也
第60回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 38) 踵骨骨折に対するプレート固定の治療経験
山口志保子, 安藤徹
第60回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 39) 当院における腰部椎間板ヘルニアの手術症例の治療成績評価
栗原典近
第60回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 40) 脳性麻痺に対するボツリヌス治療経験
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝薫葉子
第60回宮崎整形外科懇話会, 2010, 6, 宮崎
- 41) 股関節前方アプローチにおける外側大腿皮神経障害に対する工夫について
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史, 菅田耕, 長澤誠, 河野雅充, 川野啓介, 李徳哲
第19回MX人工股関節研究会, 2010, 7, 福岡
- 42) 人工股関節置換術後の歩行時安定性の変化
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史, 中村嘉宏, 菅田耕, 長澤誠, 河野雅充, 川野啓介, 李徳哲
19回MX人工股関節研究会, 2010, 7, 福岡

- 4 3) 前十字靭帯損傷膝のジャンプ動作における反張膝の影響
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 宮崎茂明
第22回日本運動器リハビリテーション学会, 2010, 7, 仙台
- 4 4) 有限要素法による TSB 下腿義足と PTB 下腿義足の比較検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 趙昕, 河原勝博, 宮崎茂明
第22回日本運動器リハビリテーション学会, 2010, 7, 仙台
- 4 5) 当科における鏡視下腱板修復術の成績—術後1年のMRI像と術後成績—
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也,
山口奈美, 崎濱智美
第2回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会学術, 2010, 7, 沖縄
- 4 6) 膝前十字靭帯再建術症例の検討
田島卓也, 山本恵太郎, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行, 山口奈美,
崎濱智美, 帖佐悦男
第2回日本関節鏡・膝スポーツ整形外科学会学術, 2010, 7, 沖縄
- 4 7) 脳性麻痺下肢痙縮に対するボツリヌス療法の歩行分析
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝薫葉子
第6回日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会(JBCP), 2010, 7, 東京
- 4 8) Spherical acetabular osteotomy for osteoarthritis of the hip: Outcomes after more than 15 years follow-up
Yoshihiro NAKAMURA, Yoshitake NAGATSURU, Tomomi MATSUOKA,
Akihiro KAWANO, Etsuo CHOSA
Seventh SICOT/SIROT Annual International Confere, 2010, 8, Gothenburg, S
- 4 9) Damage Control Orthopaedics に基づいた整形外科的治療戦略
中村嘉宏, 寺井親則, 伊達晴彦, 松島俊介, 今井光一, 今村直哉, 横田敦子,
帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 池尻洋史,
菅田耕, 河野雅充, 川野啓介
第36回宮崎救急医学会, 2010, 8, 宮崎
- 5 0) 高齢者から採血した自己血輸血のヘモグロビン
柏木輝行, 矢野良英, 花堂祥治, 小島岳史
第20回宮崎オルト会, 2010, 8, 宮崎

- 5 1) スポーツによる膝複合靭帯損傷に対する再建術
山口奈美, 山本恵太郎, 河原勝博, 矢野浩明, 石田康行, 崎濱智美,
帖佐悦男, 田島卓也
第 3 6 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2010, 9, 横浜
- 5 2) 低 CRP 値を示す RA 患者における血中アドレノメデュリン
濱田浩朗, 帖佐悦男, 税所幸一郎
第 4 0 回九州リウマチ学会, 2010, 9, 鹿児島
- 5 3) アテトーゼ型脳性麻痺に伴った頸髄症の治療成績
黒木浩史, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 帖佐悦男, 久保紳一郎
第 1 9 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2010, 10, 札幌
- 5 4) 看護師のロコモティブシンドローム予防に関する研究
藤浦まなみ, 水永豊子, 鶴田来美, 蒲原真澄, 塩満智子, 綾部友絵, 帖佐悦男,
宮崎茂明
第 1 回日本運動看護学会学術集会, 2010, 10, 宮崎
- 5 5) 整形外科的下肢疾患患者へ歩行動作分析検査を導入した取り組みの評価
堀田由美, 内田倫子, 濱野友生, 渡邊信二, 河原勝博, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第 1 回日本運動看護学会学術集会, 2010, 10, 宮崎
- 5 6) 宮崎大学医学部附属病院における「健康スポーツナース」養成の取り組み
塩月美香, 吉本純子, 藤浦まなみ, 水永豊子, 日高真美子, 帖佐悦男
第 1 回日本運動看護学会学術集会, 2010, 10, 宮崎
- 5 7) 可変型遺伝トラップ法を用いた骨軟骨疾患に関与する新規遺伝子の探索
黒木修司, 関本朝久, 松元太郎, 崎濱智美, 濱田浩朗, 荒木喜美, 荒木正健,
山村研一, 帖佐悦男
第 2 5 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2010, 10, 京都
- 5 8) 単純 X 線による股関節臼蓋被覆評価の検討について
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史
第 3 7 回日本股関節学会学術集会, 2010, 10, 福岡
- 5 9) 当院における FAI (Femoracetabularimpingement) の治療経験と自然経過についての検討
坂本武郎, 帖佐悦男
第 3 7 回日本股関節学会学術集会, 2010, 10, 福岡

- 60) 前および初期変形性股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術の成績
川野彰裕, 帖佐悦男, 長鶴義隆, 松岡知巳
第37回日本股関節学会学術集会, 2010, 10, 福岡
- 61) レジデントのための変形性股関節症の画像診断
—単純X線をいかに読むか(Femoroacetabular impingement:FAI)を含む—
帖佐悦男
第37回日本股関節学会学術集会, 2010, 10, 福岡
- 62) 骨髄疾患に起因した神経原性側彎症の検討
黒木浩史, 猪俣尚規, 帖佐悦男, 田島直也
第44回日本側彎症学会, 2010, 10, 札幌
- 63) 投球動作における身体運動と肩甲骨周囲筋の活動特性
宮崎茂明, 渡辺将成, 平安堅吾, 常盤直孝, 石田康行, 帖佐悦男, 鳥取部光司,
河原勝博
第7回肩の運動機能研究会, 2010, 10, 仙台
- 64) 脳性麻痺下肢痙縮に対するボツリヌス療法の歩行分析評価
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝蔭葉子
第27回日本脳性麻痺の外科研究会, 2010, 10, 金沢
- 65) 鏡視下腱板修復術々後再断裂の検討
石田康行, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 崎濱智美,
長澤誠, 宮元修子
第120回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2010, 11, 佐賀
- 66) 上腕骨骨頭に発生した軟骨芽細胞腫の1症例
宮元修子, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美, 崎濱智美,
長澤誠, 帖佐悦男
第120回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2010, 11, 佐賀
- 67) 馬尾症候群を伴った腰椎椎間板ヘルニアの検討
猪俣尚規, 黒木浩史, 濱中秀昭, 増田寛, 福嶋秀一郎, 黒木修司, 比嘉聖,
樋口誠二, 永井琢哉, 帖佐悦男, 久保紳一郎
第120回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2010, 11, 佐賀

- 68) 脳性麻痺片麻痺患者に対するアキレス腱延長術前後の歩行分析評価
門内一郎, 柳園賜一郎, 川野彰裕, 勝薫葉子, 渡邊信二, 帖佐悦男
第21回日本小児整形外科学会学術集会, 2010, 11, 徳島
- 69) 脳性麻痺片麻痺患者に対するボツリヌス療法前後の歩行分析評価
川野彰裕, 柳園賜一郎, 門内一郎, 勝薫葉子, 帖佐悦男, 渡邊信二
第21回日本小児整形外科学会学術集会, 2010, 11, 徳島
- 70) 人工股関節置換術後の歩行時重心揺性の評価
渡邊信二, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 河原勝博, 趙昕
第37回日本臨床バイオメカニクス学会, 2010, 11, 京都
- 71) 人工股関節置換術後におけるサポートリングの応力解析
趙昕, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, 河原勝博, 鄧銅
第37回日本臨床バイオメカニクス学会, 2010, 11, 京都
- 72) 投球動作における身体運動と肩甲骨周囲筋の活動特性
—正常および投球障害肩での検討—
宮崎茂明, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 河原勝博
第37回日本臨床バイオメカニクス学会, 2010, 11, 京都
- 73) 反張膝が前十字靭帯再建術前後の歩行様式に与える影響
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, 宮崎茂明
第37回日本臨床バイオメカニクス学会, 2010, 11, 京都
- 74) 有限要素法を用いた人工股関節再置換術におけるステム固定制の検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 趙昕, 渡邊信二, 河原勝博, 鄧銅
第37回日本臨床バイオメカニクス学会, 2010, 11, 京都
- 75) 当科における頸椎 OPLL に対する棘突起縦割式脊柱管拡大術の術後成績
濱中秀昭, 黒木浩史, 猪俣尚規, 増田寛, 福嶋秀一郎, 樋口誠二, 比嘉聖,
帖佐悦男
第74回西日本脊椎研究会 2010, 11, 福岡
- 76) 大腿臀転子部骨折に対する 120℃ 125℃Gamma3nail の比較
小島岳史, 柏木輝行, 花堂祥治, 矢野良英
第120回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2010, 11, 佐賀

- 77) 脳性麻痺下肢痙縮に対するボツリヌス療法の歩行分析評価
川野彰裕, 柳園賜一郎
日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会東海地区勉強会, 2010.11, 名古屋
- 78) Bennitt lesion に対し鏡視下手術を施行した1例
長澤誠, 石田康行, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也,
山口奈美, 崎濱智美, 帖佐悦男
第23回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2010, 12, 福岡
- 79) カヌー動作におけるパドリング時骨盤の動作解析
渡辺将成, 宮崎茂明, 濱野友生, 堀田由美, 鳥取部光司, 山本恵太郎, 河原勝博,
田島卓也, 山口奈美, 帖佐悦男, 尾崎勝博, 福本周一
第23回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2010, 12, 福岡
- 80) 投球動作における身体運動と肩甲骨周囲筋の活動特性
—正常および投球障害肩での検討—
宮崎茂明, 石田康行, 渡辺将成, 平安堅吾, 堀田由美, 濱野友生, 常盤直孝,
鳥取部光司, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 帖佐悦男
第23回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2010, 12, 福岡
- 81) 膝蓋腱完全断裂に対し、再建術施行しスポーツ復帰し得た1例
小島岳史, 花堂祥治, 矢野良英, 柏木輝行, 塩崎猛, 田島卓也,
帖佐悦男
第23回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2010, 12, 福岡
- 82) 当科における体外衝撃波治療の経験
河原勝博, 崎濱智美, 長澤誠, 川野啓介, 永井琢哉, 宮元修子, 帖佐悦男
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎
- 83) 特発性手根管症候群に対する鏡視下手根管開放術の治療経験
崎濱智美, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美,
長澤誠, 宮元修子, 帖佐悦男
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎
- 84) 特発性前骨間神経麻痺の1例
川野啓介, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美, 崎濱智美,
長澤誠, 帖佐悦男
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎

- 85) 肘関節部脂肪腫による後骨間神経麻痺を呈した1例
吉川大輔, 園田典生, 田邊龍樹, 矢野浩明, 帖佐悦男
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎
- 86) 上腕骨顆上骨折後の内反肘に生じた遅発性尺骨神経麻痺の1例
川添浩史, 深野木快士
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎
- 87) 人工膝関節置換術におけるトラネキサム酸を用いたドレーンクランプ法の経験
梅崎哲矢, 浪平辰州, 上通一師
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎
- 88) 両側外側円板状半月板に合併した両側大腿骨難断性軟骨炎の一例
栗原典近
第61回宮崎整形外科懇話会, 2010, 12, 宮崎

◆ 総 説

- 1) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴 第3回 足部(2)
山本恵太郎, 帖佐悦男
臨床整形外科, 46(1):52-55, 2010, 1, 医学書院
- 2) 早目が肝心!子どもからのロコモ対策
帖佐悦男
NHKきょうの健康, 2月号:82-85, 2010, 2, HNK出版
- 3) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴 第4回 膝関節
田島卓也, 帖佐悦男
臨床整形外科, 46(2):147-149, 2010, 2, 医学書院
- 4) 整形外科診療のNBM こんな時はこう答える「ロコモティブシンドローム編」
帖佐悦男
オルソタイムズ, 5(2):6-6, 2010, 3, メジカルビュー社
- 5) 小児野球肘をめぐる話題 (座談会)
帖佐悦男
Ortho Community2010, (36):2-6, 2010, 3

- 6) 運動器外傷・熱傷・科学損傷・胸腹部外傷 学校での運動器（四肢・脊椎・骨盤）の外傷
帖佐悦男
学校保健, (285):2-3, 2010, 11, (財) 日本学校保健会
- 7) 関節症・関節リウマチに対するヒアルロン酸ナトリウム製剤
帖佐悦男
整形外科看護, 15(11):58-59, 2010, 11, MCメディカ出版
- 8) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴 第1回 総論
帖佐悦男
臨床整形外科, 45(11):1004-1009, 2010, 11, 医学書院
- 9) ココロとカラダの医学入門 Vol.4 あなたも「ロコモ」かも知れない!?
帖佐悦男
じゅぴあ, (217):52-55, 2010, 12, 鉾脈社
- 10) 「健康スポーツナース」で地域住民の健康を守る
帖佐悦男
週刊医学界新聞, (2908):2-2, 2010, 12, 医学書院
- 11) ロコモティブシンドロームと要介護予防「膝痛のためのロコトレ」
帖佐悦男
長寿科学振興財団機関紙「Aging&Health」,
56(2012):15-18, 2010, 12, 厚生科学研究所
- 12) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴 第2回 足部(1)
園田典生, 帖佐悦男
臨床整形外科, 45(12):1139-1142, 2010, 12, 医学書院

◆ポスター

- 1) 橈骨頭亜脱臼を伴う肘離断性骨軟骨炎の手術療法不良例と保存療法良好例
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山口奈美, 崎濱智美
第22回日本肘関節学会学術集会, 2010, 2, 埼玉
- 2) ステム再置換時の骨移植例の検討
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 池尻洋史,
中村嘉宏
第40回日本人工関節学会, 2010, 2, 那覇

- 3) 関節リウマチ患者の肘部に発生した Lymphangioma の 1 例
濱田浩朗, 帖佐悦男, 税所幸一郎
第 39 回九州リウマチ学会, 2010, 3, 福岡
- 4) 可変型遺伝トラップ法を用いた骨軟骨疾患に関与する新規遺伝子の探索
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 池尻洋史,
中村嘉宏, 船元太郎, 黒木修司, 荒木喜美, 荒木正健, 山村研一
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5, 東京
- 5) 脊椎脊髄病疾患の脳脊髄液中アドレノメデュリン濃度
濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱田浩朗, 帖佐悦男
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5, 東京
- 6) 当科における遠位横止めシステムの治療ケ池院
池尻洋史, 帖佐悦男
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5, 東京
- 7) 変形性股関節症における CE 角と VCA 角の再現性・一致性
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,
池尻洋史, 福田一
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5, 東京
- 8) 変形性股関節症における歩行時重心動揺性の検討
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 池尻洋史,
中村嘉宏
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2010, 5, 東京
- 9) Function of OASIS in Bone Fracture Healing
Taro Funamoto, Tomohisa Sekimoto, Tomohiko Murakami,
Kazunori Imaizumi, Etsuo Chosa
The 20th Japanes-Korean Combined Orthopaedic Symposium,
2010, 6, 鹿児島
- 10) Gait Analysis of the Back Knee-Evaluation of the Anterior Cruciate Ligament
Deficient Knee and the Sound Knee-
Katsuhiko Kawahara, Etsuo Chosa, Koji Totoribe, Shinji Watanabe,
Tomohisa Sekimoto, Keitarou Yamamoto, Takuya Tajiima, Nami Yamaguchi
The 20th Japanes-Korean Combined Orthopaedic Symposium,
2010, 6, 鹿児島

- 1 1) The role of hanging total spine x-rays in idiopathic scoliosis
Hiroshi Kuroki, Shinichiro Kubo, Etsuo Chosa, Naoya Tajima
The 17th Internatinal Meeting on Advanced Spine Techniques (IMAST),
2010, 7, Toronto, Canada
- 1 2) 骨折治癒過程における OASIS の関与
船元太郎, 関本朝久, 村上智彦, 黒木修司, 今泉和則, 帖佐悦男
第 2 8 回日本骨代謝学会学術集会, 2010, 7, 東京
- 1 3) 骨線維性異形形成 (OFD) に対し骨欠損部を β -TCP のみで補填した 3 例
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 池尻洋史,
中村嘉宏
第 4 3 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2010, 7, 東京
- 1 4) Periacetabular osteotomy for the tratment of coxarthrosis with huge cysts - Prospective
consecutive series with a 7-year minimum follow-up period
Etsuo CHOSA, Takero SAKAMOTO, Shinji WATANABE, Tomohisa SEKIMOTO,
Hiroaki HAMADA, Shotaro NOZAKI, Hiroshi IKEJIRI, Yoshihiro NAKAMURA,
Hajime FUKUDA
Seventh SICOT/SIROT Annual International Conference,
2010, 8, Gothenburg, Sweden
- 1 5) Function of OASIS in Bone Fracture Healing
Taro Funamoto, Tomohisa Sekimoto, Tomohiko Murakami,
Kazunori Imaizumi, Etsuo Chosa
The 7th Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies(CORS),
2010, 10, 京都
- 1 6) 骨折治癒過程における OASIS の関与
船元太郎, 関本朝久, 村上智彦, 今泉和則, 帖佐悦男
第 2 5 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2010, 10, 京都
- 1 7) 前十字靭帯損傷膝における反張膝の影響
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 渡邊信二, 関本朝久, 山本恵太郎,
田島卓也, 山口奈美
第 2 5 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2010, 10, 京都
- 1 8) 腱板断裂非手術例の追跡調査
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 崎濱智美
第 3 7 回日本肩関節学会, 2010, 10, 仙台

- 19) 白蓋形成不全症のCNV解析
関本朝久, 帖佐悦男, 船元太郎, 濱田浩朗, 坂本武郎, 渡邊信二, 野崎正太郎,
池尻洋史, 中村嘉宏, 菅田耕
第37回日本股関節学会学術集会, 2010, 10, 福岡
- 20) 人工股関節置換術後の歩行時重心動揺性の変化
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎, 池尻洋史,
中村嘉宏, 菅田耕
第37回日本股関節学会学術集会, 2010, 10, 福岡
- 21) 当科でのOHTによる先天性股関節脱臼の治療経験
渡邊信二, 帖佐悦男
第21回日本小児整形外科学会学術集会, 2010, 11, 徳島
- 22) 学校における運動器検診の実施について
山本恵太郎, 帖佐悦男, 田島卓也, 山口奈美, 田島直也, 岡田光司, 平川俊一,
福嶋麻里
第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2010, 11, つくば
- 23) 中学・高校生の剣道選手に対するアンケート傷害調査
—整形外科・耳鼻咽喉科・歯科航空外科領域において—
山口奈美, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 帖佐悦男
第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2010, 11, つくば
- 24) ラグビー競技会に対する安全度評価法の現場指導者への浸透度・理解度
田島卓也, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 河原勝博, 中村嘉宏, 吉川大輔, 吉川教恵,
山口奈美, 比嘉聖, 福田一
第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2010, 11, つくば
- 25) 冷却スプレーによる運動後疲労回復の検討
池尻洋史, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美
第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2010, 11, つくば
- 26) RA滑液包炎と類似したリンパ管腫の1例
濱田浩朗, 税所幸一郎
第38回日本関節病学会, 2010, 11, 京都

◆シンポジウム

- 1) 骨盤・股関節・大腿部のスポーツ傷害（外傷・障害）
山本恵太郎，田島卓也，山口奈美，帖佐悦男
第38回日本関節病学会，2010，11，京都

◆講演

- 1) 「ロコモティブ・シンドロームとは」－肥満、運動器、内科疾患との関わり－
帖佐悦男
第5回宮崎県糖尿病運動療法研究会プログラム，2010.1，宮崎
- 2) スポーツ指導者に必要な医学的知識 I
帖佐悦男
平成21年度第2回スポーツリーダー養成講習会兼
スポーツ少年団認定員養成講習会，2010.1，宮崎
- 3) スポーツ診療における診断に際してのピットホール
帖佐悦男
第118回北海道整形災害外科学会，2010.1，札幌
- 4) スポーツ医学と看護に期待するもの
帖佐悦男
第1回日本健康運動看護学会総会，2010.2，宮崎
- 5) スポーツと腰痛－疫学的調査－
帖佐悦男
第21回腰痛シンポジウム，2010.3，東京
- 6) 宮崎県における新しいスポーツ人材育成システムの紹介
帖佐悦男
大分県スポーツ学会，2010.3，大分
- 7) 成長期の身体特性とスポーツ傷害－今回の経緯を含め－
帖佐悦男
第1回ひむかスポーツ医学セミナー，2010.4，宮崎

- 8) スポーツ指導者に必要な医学的知識 I
帖佐悦男
平成22年度第1回スポーツリーダー養成講習会兼
スポーツ少年団認定員養成厚生会, 2010.5, 宮崎
- 9) リウマチと合併症
帖佐悦男
日本リウマチ友の会第30回宮崎支部総会・講演会, 2010.5, 宮崎
- 10) 臨床に役立つ画像診断
—基礎と臨床—
帖佐悦男
関西医科大学整形外科春期セミナー, 2010.5 大阪
- 11) スポーツ診療における画像診断のピットホール
帖佐悦男
佐世保整形外科医会学術講演会, 2010.6, 佐世保
- 12) スポーツ診療における画像診断のピットホール
帖佐悦男
第54回下野整形懇談会, 2010.6, 栃木
- 13) スポーツ診断における診断に際してのピットホール
帖佐悦男
第4回大阪最新整形外科研修セミナー, 2010.6, 大阪
- 14) 成長期のスポーツ傷害について
山本恵太郎
西臼杵地区学術講演会, 2010.8, 宮崎
- 15) 臨床に役立つ下肢の画像診断—基礎と臨床—
帖佐悦男
第20回宮崎オルト会, 2010.8, 宮崎
- 16) 小児の運動器疾患と学童期検診—ロコモ対策を含め—
帖佐悦男
第54回九州ブロック学校保健・学校医大会, 2010.8, 鹿児島

- 17) 肩腱板断裂の診断と治療
石田康行
宮崎市郡整形外科医会(9月例会), 2010.9, 宮崎
- 18) スポーツ診療における画像診断に際してのピットフォール
帖佐悦男
第18回岡山関節外科学研究会, 2010.10, 岡山
- 19) 高次脳機能障害について
帖佐悦男
第51回九州理学療法学会, 2010.11, 宮崎
- 20) 中学生・高校生のスポーツ外傷・障害の対処とその予防法について
帖佐悦男
日南串間地区部活動推進地区別協議会, 2010.12, 日南

◆その他

- 1) Orthopaedics スポーツ外傷・障害診療実践マニュアル編集企画
2010, 5

編集後記



今回のテーマは“関連病院の紹介”とさせていただきました。これまで単発に数院程度紹介させていただいていたのですが、特集号があると今後の参考になるかと企画しました。医学の進歩とともに整形外科領域も多様な疾患、治療法が出現し病院の特色もみられるようになりました。この特集号を参考にして、患者さんに最善の治療ができるよう、同門みんなで協力体制がとれればと思います。

新入会員紹介として賛助会員、谷村俊次先生、正会員、大塚記史先生、森田雄大先生、戚美玲先生に御入会いただき自己紹介を御寄稿していただきました。

その他、奨励賞、同門会、医局行事などがあります。皆様には隔々まで目を通していただけると幸いです。

最後に何かと忙しい中、本誌に御寄稿いただいた諸先生方に深謝いたします。

平成24年7月吉日

渡 邊 信 二

石 田 康 行 (文責)

田 原 加 奈 子

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 平成24年6月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 石 田 康 行

印 刷 所 宮崎県児湯郡新富町大字上富田4726-1
障害者支援施設 あゆみの里